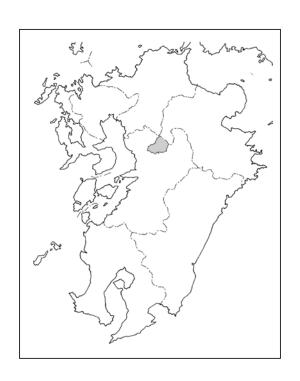
中世菊池一族関連遺跡群確認調査概要報告書

「菊之城跡」 「守山城跡及び内裏尾」 「隈府城下遺跡」

2020年 菊池市教育委員会

中世菊池一族関連遺跡群確認調査概要報告書

「菊之城跡」 「守山城跡及び内裏尾」 「隈府城下遺跡」



2020年 菊池市教育委員会

序 文

菊池市は熊本県北部に位置し、阿蘇外輪山を源とする1級河川菊池川とその支流 合志川、迫間川によって、豊かな自然環境が育まれています。その歴史は古く、南 北朝時代には南朝方に忠節を尽くして戦い、その名を謳われた菊池一族の本拠とし て知られています。また文教の地としても知られ、多くのすぐれた学者や教育家を 輩出してきました。

本書は中世菊池一族の城館と考えられる菊之城跡、守山城跡及び内裏尾、並びに 隈府城下遺跡をはじめとする関連遺跡の確認調査等の概要報告書です。菊之城跡は 初代則隆から十六代武政の代まで、守山城跡はそれ以降の菊池一族の本城であった と伝承されてきました。本書は菊池市教育委員会が両遺跡の実態解明と歴史的価値 付けを目的とした確認調査、周囲の関連遺跡等の踏査等を実施し、その考古学的成 果を概要報告書としてまとめたものです。本書が文化財保護と学術研究の推進に寄 与できましたら幸いに存じます。

最後に、発掘調査から本書の作成にいたるまでご協力をいただきました多くの 方々に、心から感謝申し上げます。

令和2年3月

菊池市教育委員会

教育長 渡 邉 和 博

例 言

- 1. 本書は、中世菊池一族関連遺跡群の国指定を目的として実施した、確認調査等の概要報告書である
- 2. 確認調査等を実施したのは、熊本県菊池市北宮に所在する菊之城跡、隈府に所在する守山城跡及び内裏尾、隈府城下遺跡等関連遺跡である。菊池市教育委員会が実施したものである。
- 3. 菊之城跡の確認調査は平成23・27年度におこなわれたもので、その他の遺跡については 適宜実施したものである。整理作業は平成29年度から令和元年度にかけておこなった。
- 4. 遺構は調査者が実測をおこなった。現場写真は調査者が撮影をおこなった。文献調査は 熊本大学文学部附属永青文庫研究センター稲葉継陽教授の監修下で熊本大学院生、並び に菊池市歴史教育専門員成富なつみ、鷲﨑有紀がおこなった。菊之城跡測量委託業務は (株)ダイチプランに、菊之城跡確認調査出土遺物写真撮影業務は(株)埋蔵文化財サポートシ ステム、(株)九州文化財研究所に、菊之城跡確認調査出土遺物実測業務は(株)埋蔵文化財サポートシ ステム、(株)九州文化財研究所、(株)有明測量開発社に、菊之城跡水準点測量業務 は(株)有明測量開発社に、菊之城跡出土炭化物年代測定は(株)古環境研究所に、菊之城跡・ 守山城跡及び内裏尾空中レーザー計測は(株)ワールドコンサルタントに、隈府城下遺跡遺 構実測業務は(株)有明測量開発社にそれぞれ委託した。
- 5. 本書の図面は基本的に遺物は土器を1/3で記載している。
- 6. 本書に掲載した図版は、菊池市教育委員会において作成したものを中心に用いたが、一部で既知の文献、絵図、調査研究成果を引用、参照した。また熊本県教育庁文化課が実施した確認調査のデータの提供を受けた。
- 7. 出土遺物および実測図などは、菊池市教育委員会が整理保管している。

本 文 目 次

序 文		
例 言		
第 I 章 訓	調査の経緯	
第1節	調査の経緯	6
第2節	調査の経過 (平成 23 ~ 30 年度調査)	6
第3節	調査の組織	7
第Ⅱ章 環	環境	
第1節	地理的環境	8
第2節	歴史的環境	8
第Ⅲ章 訓	調査の成果	11
第1節	菊之城跡 平成 23 年度の確認調査成果	
	【トレンチ1】	11
	【トレンチ2】	12
	【トレンチ3】	14
第2節	菊之城跡 平成 27 年度の確認調査成果	
	【トレンチ4】	16
第3節	菊之城跡確認調査の考察	16
第4節	菊之城跡周辺の踏査等の成果	32
第5節	守山城跡及び隈府の町並み	33
第6節	菊之城跡・守山城跡の空中レーザー測量	36
第7節	菊之城跡確認調査出土炭化物測定	36
第8節	文献調査の成果	37
第Ⅳ章 約	総括	40
写直図版		43

第1章 序 説

第1節 調査の経緯

菊之城跡は菊池市北宮に所在する。中世の菊池一族に関連する所謂「菊池十八外城」のひとつとして、昭和 41年に市指定史跡に指定されており、その後は大きく状況を変えずに現在にいたっている。 菊之城跡が関連遺跡 の中でも特に重要視されているのは、一族が最初に構えた居館であると伝えられ、本拠移転後も外城のひとつに あげられていることである。

平成24年1月24日、菊之池区長会長・深川区長より「菊之池城(館)跡地の試掘・調査実施についてのお願 い」により調査、整備等の要望があった。これを受けて菊池市教育委員会では、3月15日~27日に菊之城跡主郭 部分と想定されている筆に、トレンチ3基を設定し実態調査を目的とした確認調査を実施した。いずれのトレン チも柱穴、土坑等の遺構を確認し、遺物包含層は概ね0.5mの厚さで良好に残り、13世紀代の土師器坏、小皿を 中心に多量に出土したことから、由来のとおり城があったことがうかがえるが、ここだけでの調査では情報量が 少なく、全体像を把握するには至らなかった。

そのため、翌24年度も引き続き確認調査を実施する必要があると判断し、9月議会で補正予算を計上して対応 する計画であった。平成24年10月9日、県文化課から菊池一族の発祥の地として国指定を目指すことを、さらに 10月20日、単一の遺跡だけではなく、菊池一族の遺跡を包括して広域的活用に取り組むよう提案され、市として 国指定を目指していく方針を固めた。

平成26年2月27日に史跡菊之城跡現地指導・事前準備調査検討委員会を開催し、文化庁近江調査官をはじ め熊本大学文学部附属永青文庫甲元研究センター長(役職当時)ら有識者から、今後の方針について提言を いただき、平成26年度から正式に菊池市史跡調査検討委員会を発足した。菊之城跡とその後の本城と伝えら れている守山城跡及び内裏尾を核とした、中世菊池一族関連遺跡を包括的な遺跡群としてとらえるようにと の委員会からの指導により、平成27年度に現地の確認調査の実施をはじめ、現地踏査、文献調査、測量調査 等の実施、その他開発事業に伴う確認調査の結果も参考にし、遺跡の実態解明に努めた。

第2節 調査の経過(平成23~30年度調査)

平成24年3月15~27日 菊之城跡確認調査実施。主郭推定箇所にトレンチ3基設定。土師器、輸入陶磁器等、柱穴、土坑等を確認。

平成26年2月27日 史跡菊之城跡現地指導・事前準備調査検討委員会を開催。

平成26~27年度 文献史料調査。中世文書、近世の永青文庫中より菊地一族、関連城館の抽出。

第1回菊池市史跡調査検討委員会を開催。 平成27年3月1日

遺構を確認。

平成27年9月 守山城跡土塁実測調查。

平成28年3月10日

平成28年9月27日

平成27年12月1・2・17日 菊之城跡北側確認調査実施。城郭推定域の北側にトレンチ1基設定。土師器、磁器等、時期不明の溝状

第2回菊池市史跡調査検討委員会を開催。 平成28年4月11・12・18・19日 守山城跡直下の隈府城下遺跡確認調査の実施。溝状遺構、ピット、井戸跡の検出。

航空レーザ測量により菊之城跡、守山城跡周辺の地形の図化。

平成29年3月10日 第3回菊池市史跡調査検討委員会を開催。

平成29年10月30日 菊之城跡の対岸、赤星舟着場推定地踏査。造成された河岸に加工された石材確認。地元区民の話による

と、昔は舟着場があったと伝えられるが、石材は河岸造成をした際に移動したとのことである。

平成29年12月22日、平成30年2月20~22日、3月13・14日

別事業に伴い菊之城跡北西側一帯の確認調査の実施。掘立柱建物跡、ピット、土坑、硬化面等を検出し、土

師器、須恵器、輸入陶磁器等が出土。菊之城跡北側一帯には古代~中世の遺跡が存在することが判明。

平成30年3月22日 第4回菊池市史跡調査検討委員会を開催。

平成30年5月16日 菊之城跡の対岸、赤星舟着場推定地踏査。川港へ通じる1~6番までの"くんば"と呼ばれる小路の確

認。港の確認はできず。

平成30年12月17·18日 深川周辺踏査。土師器、輸入陶磁器表採。

平成30年12月25日 隈府院馬場遺跡確認調査。客土除去後に井戸跡確認。

平成31年1月8日 深川周辺踏査。古池地名調査。井戸確認。

平成31年1月23日 深川周辺確認調査。畑中の硬化面もしくは礎石の存在の有無を調査。

平成31年3月7日 菊池市文化財保護委員会坂口会長と共に深川周辺踏査。舟つなぎの伝承がある古木等確認。土師器、輸

入陶磁器表採。

平成31年3月14日 第5回菊池市史跡調査検討委員会を開催。

第3節 調査の組織

調査主体 菊池市教育委員会

調查責任者 倉原 久義 (菊池市教育長) 平成22年7月8日~平成26年7月7日

原田 和幸 (菊池市教育長) 平成26年7月8日~平成30年7月7日

渡邉 和博 (菊池市教育長) 平成30年7月8日~

調査総括 櫨川 健治(生涯学習課長)平成23年度

原本 裕之(生涯学習課長)平成24・25年度

田嶌 晴雄(生涯学習課長)平成26·27年度

笹原 猛(生涯学習課長)平成28~30年度

山本美千代(生涯学習課長)平成31年度~

調查担当 坂本憲昭、西住欣一郎、北原美和子、阿南 亨(生涯学習課)

調査協力者 禰宜田佳男(文化庁)、太田幸博(元熊本県教育委員会)、岡本真也(熊本県教育委員会)、美濃口雅朗(熊本市教育委員会)、永野弘明・西村沙保理・坂井泰雄(熊本大学院生)、高山敏朗・堤 克彦・坂口金次郎・角田孝信・稲田たつえ・橋本以蔵(菊池市)、成冨なつみ・鷲崎有紀・中尾健照・茨木浩一・士野雄貴・久保田陽香・西坂知紘・田中 暁(菊池市教育委員会)

史跡菊之城跡現地指導・事前準備調査検討委員会、菊池市史跡調査検討委員会 委員

名	前	所 属	専門分野	年 度	備考
甲元 眞之	有識者	熊本大学名誉教授	考古学	平成25年度~	現地指導·事前準備調査検討委員会 史跡調査検討委員
北野 隆	有識者	熊本大学名誉教授	建築学	平成25年度~	現地指導·事前準備調查検討委員会 史跡調査検討委員
山尾 敏孝	有識者	熊本大学名誉教授	土木工学	平成25年度~	現地指導·事前準備調查検討委員会 史跡調査検討委員
稲葉 継陽	有識者	熊本大学文学部歴史学科教授	歴史学(中世)	平成25年度~	現地指導·事前準備調查検討委員会 史跡調査検討委員
小畑 弘己	有識者	熊本大学文学部歴史学科教授	考古学	平成25年度~	現地指導·事前準備調查検討委員会 史跡調査検討委員
鈴木 寛之	有識者	熊本大学文学部総合人間学科准教授	民俗学	平成25年度~	現地指導·事前準備調查検討委員会 史跡調查検討委員
小野 正敏	有識者	人間文化研究機構理事	考古学	平成25年度	現地指導·事前準備調査検討委員会
坂口 金次郎	有識者	菊池市文化財保護委員会会長		平成25年度~	現地指導·事前準備調查検討委員会 史跡調査検討委員
荒木 文代	有識者	菊池市文化財保護委員		平成30年度~	史跡調査検討委員
松嵜 英紀	地元代表	北宮区長		平成27年度	史跡調査検討委員
石渕 博人	地元代表	北宮区長		平成28·29年度	史跡調査検討委員
北村 克己	地元代表	北宮区長		平成30年度~	史跡調査検討委員
高山 由則	地元代表	深川区長		平成27年度	史跡調査検討委員
冨田 恭一	地元代表	深川区長 菊之池区長会会長(29年度)		平成28·29年度	史跡調査検討委員
松永 信也	地元代表	深川区長		平成30年度~	史跡調査検討委員
光永 明德	地元代表	菊之池区長会会長 上西寺区長		平成27年度	史跡調査検討委員
宮本 啓一	地元代表	菊之池区長会会長 南古閑区長		平成28年度	史跡調査検討委員
髙山 孝雄	地元代表	菊之池区長会会長 神来区長		平成30年度~	史跡調査検討委員
坂本 杲	地元代表	菊池神社宮司		平成27~28年度	史跡調査検討委員
戸髙 八德	地元代表	菊池神社宮司		平成29年度~	史跡調査検討委員
'下江	七卦本	立 化 <u><u></u> </u>	相菜子小肚(中,吃冊)	亚式95年度-	

近江	俊秀	有識者	文化庁記念物課	埋蔵文化財(中近世)	平成25年度~	アドバイザー
			熊本県教育委員会事務局教育総務局文化課		平成25年度~	7 (7)(4 %) —

第Ⅱ章 環 境

第1節 地理的環境

まず菊之城跡、守山城跡の所在する菊池市の地理的環境について述べてみたい。菊池市は、九州の中部熊本県の北部に位置し、東に阿蘇郡、西に鹿本郡と接し、北に大分県と県境を接する。平成17年3月に旧菊池市、七城町、泗水町、旭志村の4市町村が合併して現在に至る。市の面積の大半は山地が占め、起伏の激しい北部の八方ヶ岳連山と、なだらかな裾野を持つ東部の鞍岳につらなる山々は標高が1000mを測り、南西部に向かってゆるやかに傾斜していき、標高400~100mの丘陵地が広がる。菊池を流れる主な河川は菊池川、追間川、合志川である。ともに多くの支流を伴いながら西進し、阿蘇山の大爆発で形成された阿蘇溶結凝灰岩(火砕流堆積物)を侵食して流域に平野部を形成する。

第2節 歴史的環境

【旧石器時代・縄文時代】

旧石器時代、菊池川流域の伊野遺跡、原遺跡、細永地区では数点のナイフ形石器、長野地区では黒曜石製の尖頭器、鞍岳山麓では馬糞塚遺跡から石槍、湯舟地区から尖頭器が採取されている。

縄文時代後期から晩期は、平野部や台地に大規模な生活拠点が出現する。菊池川流域の平野に天祗遺跡、花房台地上に万太郎遺跡、木柑子遺跡群、台地の南に三万田東原遺跡、合志川をはさんだ南の丘陵に伊坂遺跡群などが所在する。三万田東原遺跡は、昭和6年に県内の考古学研究の中心的人物であった坂本経堯氏らによってトレンチ調査がおこなわれた、住居址、多量の土偶が確認された熊本を代表する縄文時代の遺跡である。

【弥生時代】

菊池川上流域には、菊池市に小野崎遺跡、うてな遺跡、山鹿市に方保田東原遺跡が所在し、台地上には弥生時代後半に大規模な環濠集落が営まれてきたことがわかる。その他平野部には西寺遺跡、外園遺跡、合志川流域の平野部に藤巻遺跡、平町遺跡などがあげられる。外園遺跡、うてな遺跡からは、中国の新代(9~23年)に鋳造された古銭貨泉が出土している。

【古墳時代】

合志川流域には久米若宮古墳など5世紀代の古墳群、合志川支流の塩浸川流域には大陸の様相が見てとれる5世紀代の古墳群、菊池川左岸の花房台地には木柑子(フタツカサン)古墳、木柑子高塚古墳などの6世紀前半代の古墳、菊池川右岸には袈裟尾高塚古墳など6世紀中ごろの小古墳群が所在し、流域ごとの古墳の変遷をみてとることができる。

【古代】

天智 2 (663) 年の白村江の戦いの後、配置された城のひとつが鞠智城(久々智城)であると考えられる。大化の改新以降の郡国制の下、菊池郡と茂石郡、後に皮石郡から分離した山本郡の一部が現在の菊池にあたり、菊池郡は菊池と七城にまたがる一帯、皮石郡は現在の旭志と泗水、山本郡は現在の泗水の西部と想定される。菊池郡衙は西寺、合志郡衙は泗水町田島と住吉に所在していたと考えられる。花房台地上の方太郎遺跡、医者どん坂遺跡では、古代官道が敷設されていたことも判明している。

【中世~近代】

中世菊池一族は蒙古襲来時には国防に務め、南北朝時代は南朝方の懷良親王を擁し、九州の南朝勢力の中心であった。本城と伝えられる守山城を中心に十八外城と呼ばれている支城群が知られている他、隈府土井ノ外遺跡で14世紀後半~15世紀前半の館跡が確認され、当時から隈府の街並みが形成されていたことが推測される他、周辺での確認調査等も進んでいる。また菊池市南部は合志一族の勢力圏であり、南北朝期には宮

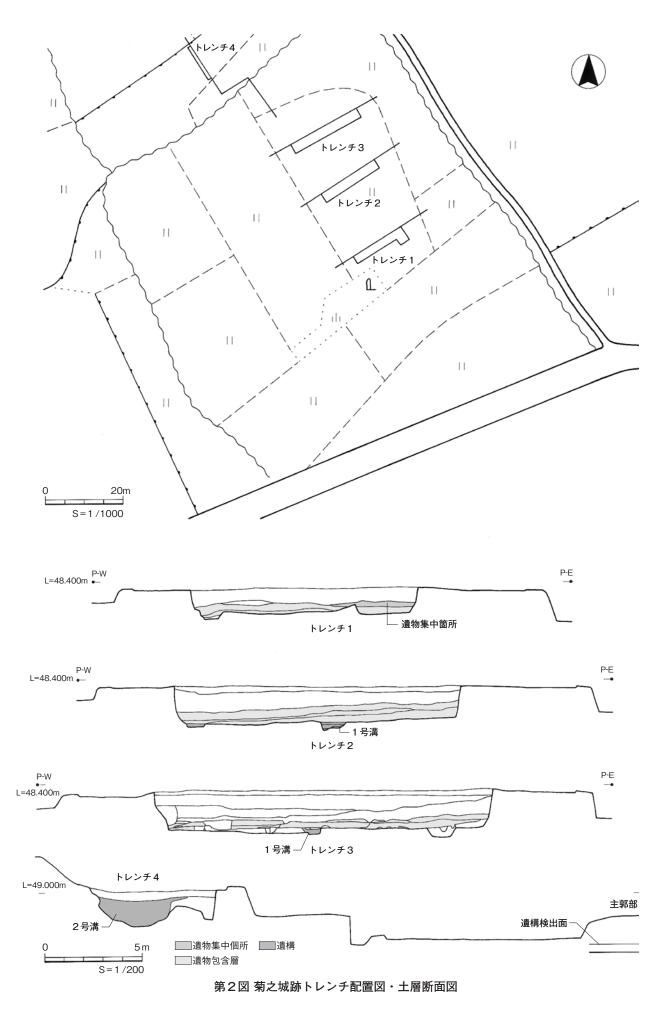
方、武家方が争っていた。

菊池一族は戦国時代後半には途絶え、菊池は細川氏の肥後藩政下、隈府が在町として栄えたが、江戸時代には地域の人々により、一族に関する記録は伝承され、中世の城の所在地を比定することもできる。

近代、花房台地上に約150haの面積に大刀洗陸軍飛行学校の花房分教所が建設されていた。戦後の開拓でも利用された給水塔をはじめ、兵舎や弾薬庫、格納庫の外壁など当時の建造物群が現在ものこる。



第1図 中世菊池一族関連遺跡群位置図



—10—

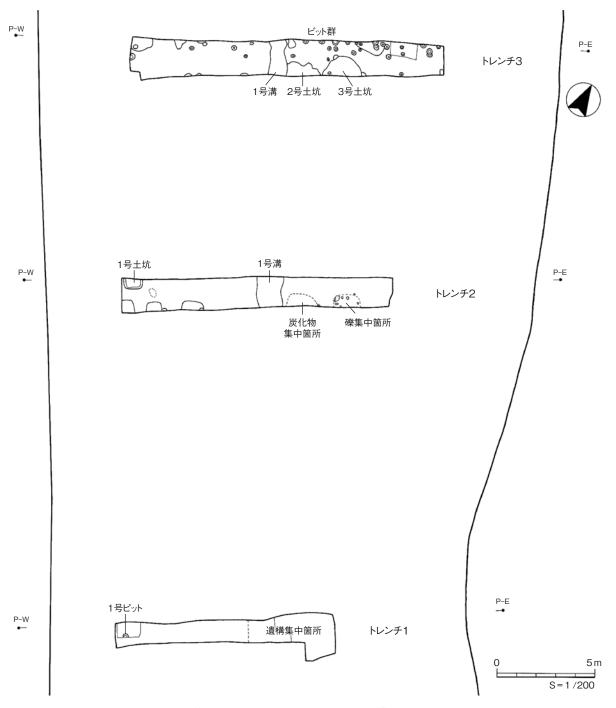
第Ⅲ章 調査の成果

第1節 菊之城跡 平成23年度の確認調査成果

平成24年3月7日~27日にかけて菊池市北宮203~205の確認調査を実施した。菊之城の主郭部分と推測されている筆の調査をおこなうことにより、城館の有無、状況等を把握することを目的とする。重機、人力によりトレンチ掘削をおこなった。トレンチは南から $1\sim3$ とする。

【トレンチ1】

菊之城跡記念碑のすぐ北側に設定した。 I 層は厚さ $0.7\sim0.9$ mの表土と客土であり、分層しがたい。 II 層は黒褐色土層。古代から中世の遺物包含層であり、 4 層に細分した。 II -1 層は厚さ0.4mを測り、 $10\sim20$ cm大の礫と土師器小片を多量に含む。 II -2 層は厚さ $0.2\sim0.3$ mを測り、青灰色の泥炭化物を多く含む。土師器



第3図 菊之城跡トレンチ1~3遺構配置図

完形品を多く含む。 II-3 層は III 層に似る。 II-4 層は厚さ $0.2\sim0.3$ mを測る。トレンチの中央部から北側にかけて II-1、2 層を覆うように検出され、多量の土器が集中して出土した。 III 層は黄褐色粘質土のアカホヤ火山灰二次堆積相当層で、地山である。トレンチ拡幅部は粗い砂質土である。

地表面から約1.5m掘り下げた箇所から遺構検出可能な面を確認したが、トレンチ全域においてII-1、2層の遺物包含層が覆い、明確な遺構は確認できなかった。

Ⅱ層の遺物包含層から土師器坏、小皿が多量に出土している。坏は口径が12~13cm代の一群、口径が11~12cm代の一群に大別できる。いずれも口縁が広がる個体、広がらない個体、外反する個体が混在する。この他、口径が14cm以上で口縁が広がる大坏ととらえられる個体もある程度存在する。小皿は口径7cm後半~9cm代におおむね収まり、立ち上がりがはっきりする個体、はっきりしない個体が混在する。一部口径が9cmを越え、非常に浅く立ち上がりがはっきりしない一群が存在する。穿孔を有す小皿、灯明皿も少量出土した。坏、小皿は見込みの渦状の凹凸をナデ消すものが大半である。いずれも底部切り離し技法は糸切りで、板状圧痕、指頭押圧痕がみとめられる。少量であるが白磁碗片、龍泉窯系青磁碗、陶質系擂鉢片、須恵器片、瓦器碗が出土している。

遺物集中箇所(II-4層)から出土した土器は土師器坏、小皿が主体である。坏は口径が13cmを越え、口縁があまり広がらない一群、口径が12cm代で口縁が広がる個体、広がらない個体、外反する個体が混在する一群、口径が11~12cm代のやや小型の一群に大別できる。口径が14cm以上で口縁が広がる大坏ととらえられる個体も少量存在する。小皿は7cm後半~8cm代の一群と、それ以下の小型の一群に大別できる。坏、小皿ともに非常に浅い個体、立ち上がりがはっきりする個体、はっきりしない個体が混在し、見込みは渦状の凹凸をナデ消すものが大半である。底部切り離し技法は糸切りで、板状圧痕、指頭押圧痕がみとめられる。

ピット1

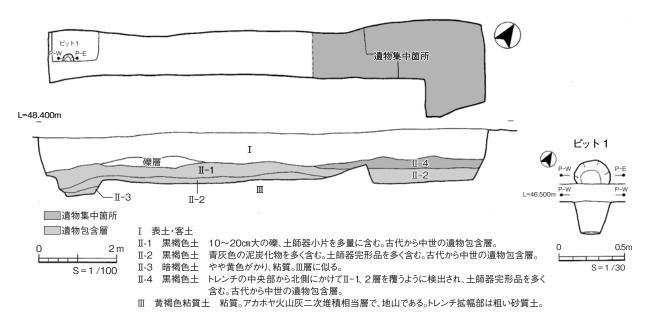
トレンチ南西端で1基検出した。平面は円形を呈し、径0.25m、深さ0.26mを測る。

遺物集中箇所

トレンチの中央部から北側にかけてⅡ-1、2層を覆うように検出され、土師器坏、小皿の完形品を多量に含む。厚さ0.3mを測る。土器溜りではないかと思われたが、明確に遺構として認識しがたい。

【トレンチ2】

中央部に設定した。Ⅰ層は厚さ0.2mの表土、客土。Ⅱ層は厚さ0.5~0.9mの暗褐色土層。Ⅲ層はにぶい褐



第4図 トレンチ1 平面図・土層断面図 ピット1平面図・断面図

色土層。古代から中世の遺物包含層で2層に細分した。Ⅲ-1層は厚さ0.3~0.4mを測り、粘質。3~5 cm大の小礫を含み、土師器、白磁、青磁を少量含む。Ⅲ-2層は厚さ0.2mを測り、粘質。Ⅲ-1層に比べて出土遺物片が大きい。Ⅳ層は厚さ0.2~0.4mの暗褐色土層。3~5 cm前後の小礫、青灰色の泥炭化物を含み、土師器、青磁、白磁を含む。古代から中世の遺物包含層である。Ⅴ層は黄褐色粘質土のアカホヤ火山灰二次堆積相当層で地山である。

Ⅳ層下面で遺構検出を試みたところ、トレンチ南西端で土坑(1号土坑)、中央部で溝状遺構(1号溝)を検出した。さらに1号溝の北東側で約1.7mの範囲で炭化物が集中する箇所(炭化物集中箇所)、礫集中 箇所を検出した。

Ⅱ~Ⅳ層の遺物包含層から主に土師器坏、小皿が出土している。見込みはナデにより渦状の凹凸を消すものが大半である。底部切り離し技法は糸切りで、板状圧痕、指頭押圧痕がみとめられる。少量であるが白磁碗片、龍泉窯系青磁碗、同安窯系青磁碗片、陶器片、須恵器片、磁器染付碗片、遺構検出面上から弥生土器甕片が1点出土している。

1号土坑

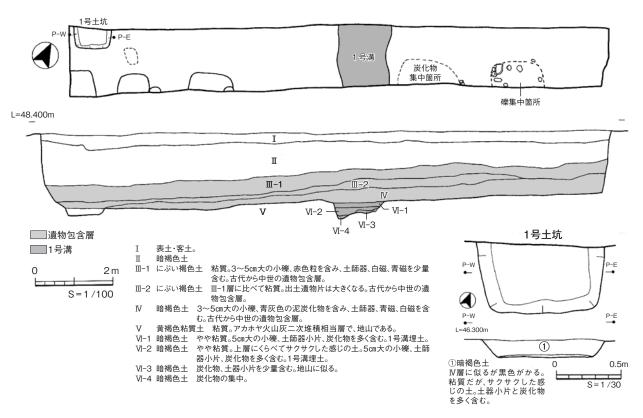
方形を呈し、北東⇔南西軸0.9m、深さ0.12mを測る。埋土は暗褐色土で \mathbb{N} 層に似るが、黒色がかり、粘質であるがサクサクした感じの土である。土師器小片、炭化物を多く含む。

1号溝

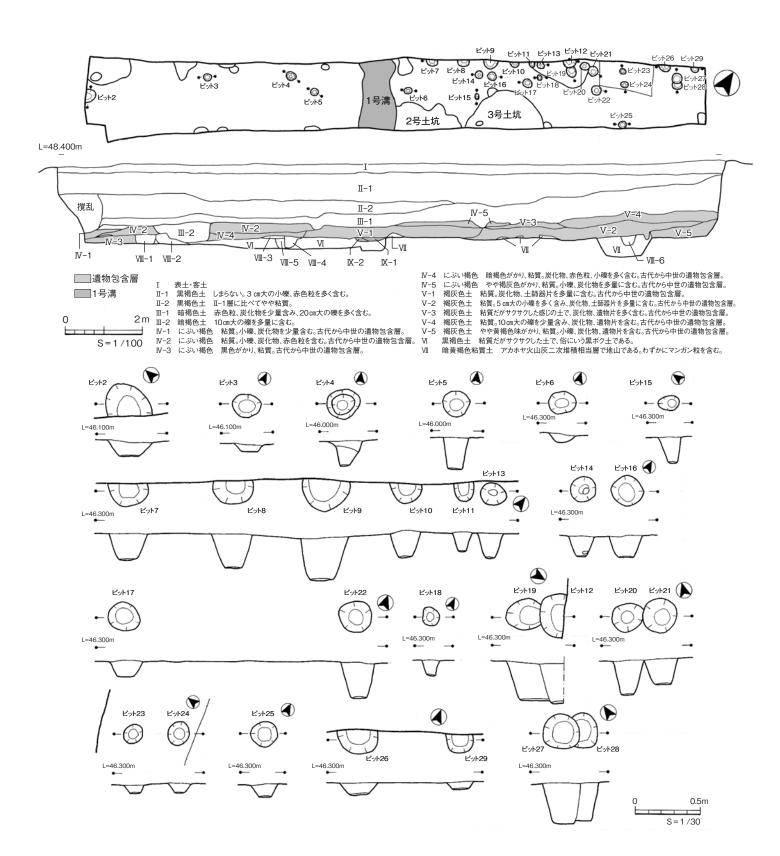
北西⇔南東方向に伸び、幅1.2m、深さ0.3~0.4mを測る。埋土は暗褐色土で、粘質であるがサクサクした感じの土である。上層に5cm大の礫を多く含む。土師器小片と炭化物を含み、最深部に炭化物が集中している。トレンチ3からも同一遺構が検出されている。

炭化物集中箇所

1号溝の北東側に位置し、炭化物が約1.7mの範囲に集中する。



第5図 トレンチ2平面図・土層断面図 1号土坑平面図・断面図



第6図 トレンチ3 平面図・土層断面図 ピット平面図・断面図

礫集中箇所

炭化物集中箇所の北東に位置し、20cm大の礫が約1.4mの範囲内で集中する。

【トレンチ3】

最北端に設定した。 I 層は厚さ0.2mの表土、客土。 II 層は黒褐色土層で2層に細分した。 II -1 層は厚さ0.3~0.8m。 しまらない。 3 cm大の小礫、赤色粒を多く含む。 II -2 層は厚さ0.3~0.6m。 トレンチ中央部ま

でしか存在しない。 II-1 層に比べてやや粘質。 II 層は暗褐色土で2層に細分した。 II-1 層は厚さ0.2~0.9 m。赤色粒、炭化物を少量含み、20cm大の礫を多く含む。 II-2 層は10cm大の礫を多量に含む。 IV 層はにぶい褐色で、トレンチ西側から中央部に存在し、古代から中世の遺物包含層である。部分的に5層に細分した。 IV-1 層はトレンチ西端で厚さ0.2mを測る。粘質。小礫、炭化物を少量含む。 IV-2 層は厚さ0.3mを測る。粘質。小礫、炭化物、赤色粒を含む。 IV-3 層は厚さ0.2~0.3mを測り、黒色がかり、粘質。 IV-4 層は厚さ0.2mを測る。暗褐色がかり、粘質。炭化物、赤色粒、小礫を多く含む。 IV-5 層はトレンチ中央部で厚さ0.2mを測る。やや褐灰色がかり、粘質。小礫、炭化物を多量に含む。 V層は褐灰色土で、トレンチ中央部から東側に存在し、古代から中世の遺物包含層である。5 層に細分した。 V-1 層は厚さ0.3mを測る。粘質。炭化物、土師器片を多量に含む。 V-2 層は厚さ0.3~0.4mを測る。粘質。5 cm大の小礫を多く含み、炭化物、土師器片を多量に含む。 V-3 層は厚さ0.2mを測る。粘質だがサクサクした感じの土で、炭化物、遺物片を多く含む。 V-4 層は厚さ0.25mを測る。粘質。10cm大の礫を少量含み、炭化物、遺物片を含む。 V-5 層はトレンチ北東側にしか存在せず、厚さ0.25~0.4mを測る。やや黄褐色味がかり、粘質。小礫、炭化物、遺物片を含む。 VI層は黒褐色土で粘質だがサクサクした土で、俗にいう黒ボク土である。 VI層は暗黄褐色粘質土で、アカホヤ火山灰二次堆積相当層で地山である。わずかにマンガン粒を含む。

トレンチ南西側から中央部にかけてはW-3層、W層下面(地表面から $2.0\sim2.2$ m)、中央部から北東側にかけてはV-1層、V-2層、V-5層下面(地表面から1.9mの深さ)で遺構検出を試みたところ、中央部でトレンチ2でも検出された1号溝の延長と想定される溝状遺構。1号溝のすぐ北東側で不整形な土坑と、円形状の土坑らしき遺構、トレンチ全体からピットを多く検出した。遺構の掘り下げは、1号溝とピット数基を抽出しておこなった。

Ⅲ~V層の遺物包含層から主に土師器坏、小皿が出土している。坏は11~12cm代におおむね収まる。口縁が内湾する個体が見受けられる。坏は見込みがナデにより渦状の凹凸を消すものが大半であるが、一部に渦状の凹凸を残す個体が見受けられる。いずれも底部切り離し技法は糸切りで、板状圧痕、指頭押圧痕がみとめられる。少量であるが白磁碗底部片、龍泉窯系青磁碗、同安窯系青磁碗片、陶器片が出土している。

2号土坑

不整形を呈す。北東⇔南東方向の長軸1.7mを測る。

3号土坑

遺構の半分がトレンチ南東側に延びる。検出では半円形であるが円形を呈すものと思われ、東西検出長 2.1mを測る。

1号溝

南北方向に幅 $0.7\sim0.9$ m、深さ0.1mを測る。埋土はやや褐色がかったサクサクした暗褐色土で、一部黒色の泥炭層である。V-1層に似る(IX-1、2層)。炭化物、土師器片を含み、トレンチ2の1 号溝と同一と考えられる。

ピット群

トレンチ全体でピットが確認されたが、特に1号溝の北側にかけてピット群が形成されている。27基を掘り下げた、そのうち18基から遺物が出土した。いずれも中世の土師器小片であった。ピットの平面は円形を呈し、径は $0.12\sim0.2$ mと、 $0.25\sim0.3$ mのふたつに分類できる。前者の深さは $0.1\sim0.2$ m、後者は $0.2\sim0.3$ mと浅い。検出した限りでは、掘立柱建物を構成する柱穴とは考えにくい。

第2節 菊之城跡 平成27年度の確認調査成果

平成27年12月1・2日、17日に、菊之城跡と推定されている範囲の北西側の筆である菊池市北宮229の確

認調査を実施した。主郭部分と推測されている筆の北西側に、堀とおぼしき一段低い区割りが認められるため、その外側の筆に確認調査を入れることにより、堀の立ち上がり部分と屋敷の範囲を確認することを目的とする。人力により幅0.8m、長さ5.8m、深さ2.0mのトレンチ掘削をおこなった。

【トレンチ4】

調査時は堀の立ち上がり部分が確認できるのではないかと思われたが、地表から約0.5mは水田の表土、床土、埋土であり、その下からは検出面での幅4.5mの北西⇔南東方向の溝状遺構がトレンチのほぼ全面にわたり検出された。底部幅は2.0m、深さは1.2mを測る。埋土中に5cm~人頭大の河原石が大量にみとめられる。この溝状遺構がそのまま延びるのであれば、筆全面におよぶ規模の大きなものと考えられるが、造成された時期や性格は不明である。

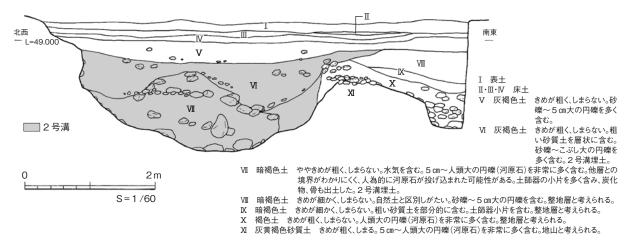
調査区の現状は、北側に向かって段丘状に高くなっていき、溝状遺構の北西側立ち上がり付近では表土の直下から地山と思われる黄褐色砂質土がみとめられるが、南東側立ち上がり付近では約0.9mの厚さの客土の下から遺構が掘りこまれていることから、南東側の黄褐色砂質土層が削平を受けていないと想定すると、現地形は北から南に傾斜しており、調査区南側は客土によって現地形に成形されていると想定される。この高低差が自然なものなのか人為的なものなのかは、判断することはできないが、客土によって地形は造成されているものと推測される。

遺構内埋土のIV、V層から土師器、須恵器、その他青磁、白磁、天目茶碗、風炉(?)、さらに骨、微量の炭化物が少量出土した。13世紀代と推測される青磁、15世紀代と推測される白磁、さらに15世紀以降と推測される風炉が認められ、土師器は古代から中世にかけてのものが遺構中に混在している。

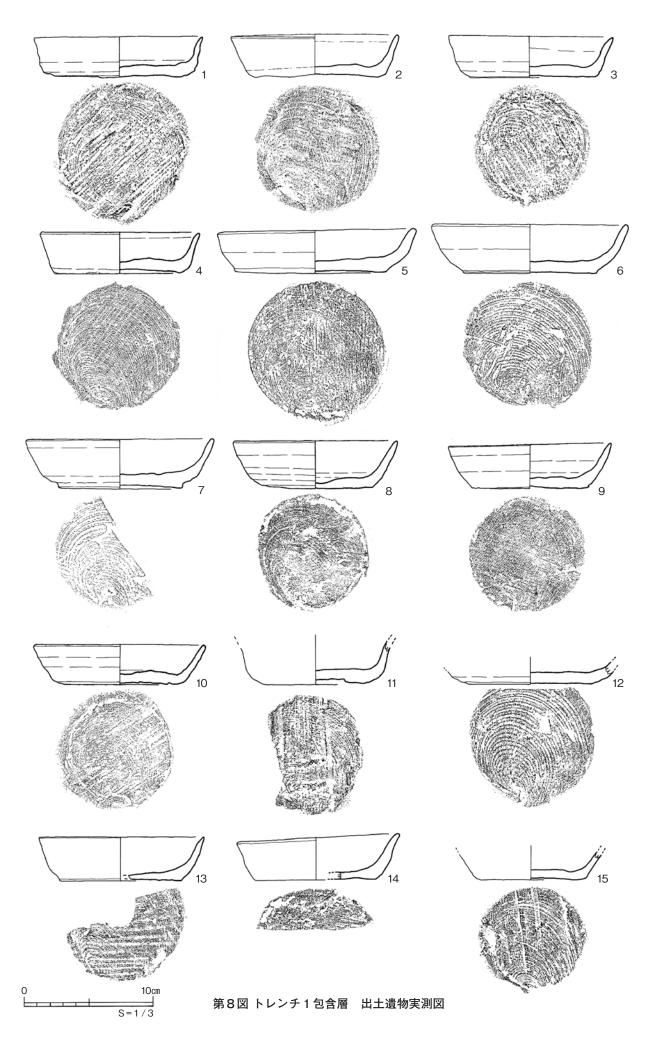
第3節 菊之城跡確認調査の考察

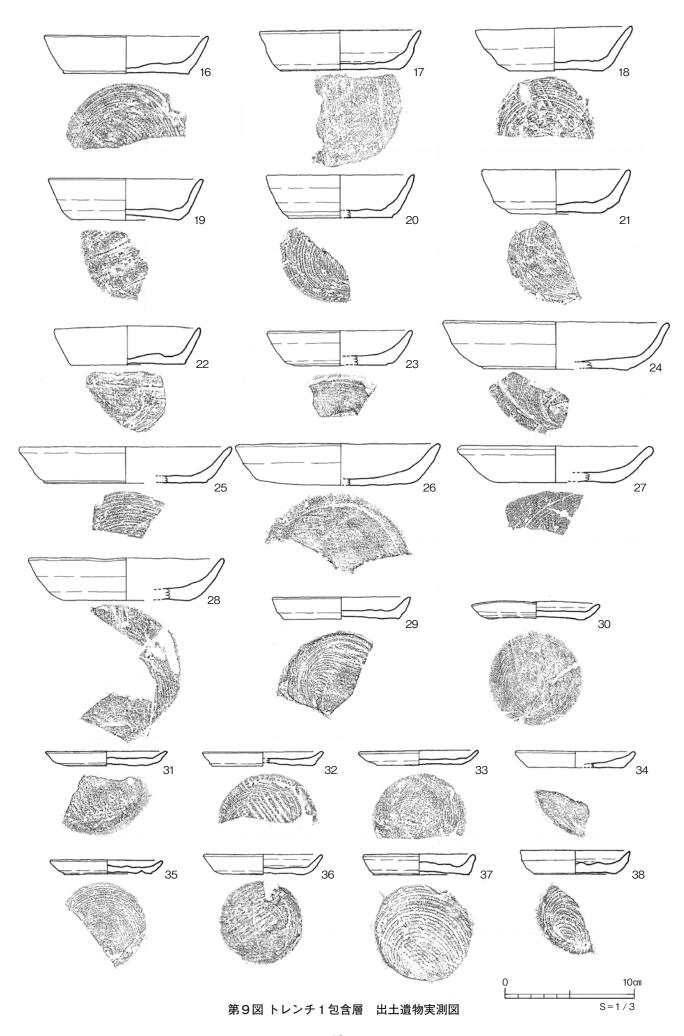
平成23年度の菊之城跡の確認調査は、主郭と想定されている筆に、北東⇔南西方向にトレンチ1~3を設定した。土層を観察すると、主郭部分の原地形は全体的に東から西、さらに北から南にかけて傾斜するととらえられる。主郭をめぐっていると想定されている堀が北西側で途切れており不自然であるが、主郭をけずって埋めた可能性もある。平成27年度に実施したトレンチ4は南東側の黄褐色砂質土層が削平を受けていないと想定すると、北から南にかけて、傾斜した地形であったことが推測される。トレンチ1~3で確認された主郭部分の地山より約1 m高く、本来の地形は、菊之城跡の北側一帯が段丘状に高くなっていると思われる。

トレンチ1~3は、地表面から北東側で1.3m~2.0m、南西側で1.5m~2.2m下で遺構検出面が確認できた。遺構として土坑、浅い溝状遺構、ピット等が検出された。トレンチ2、3の中央部で検出された1号溝

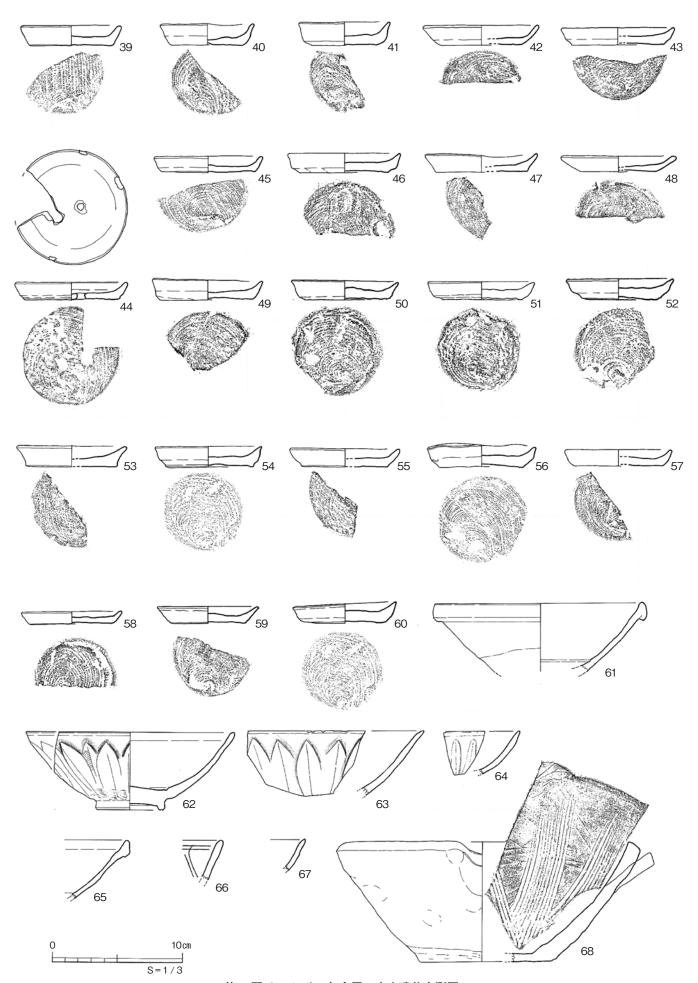


第7図 トレンチ4 2号溝北西⇔東南断面図

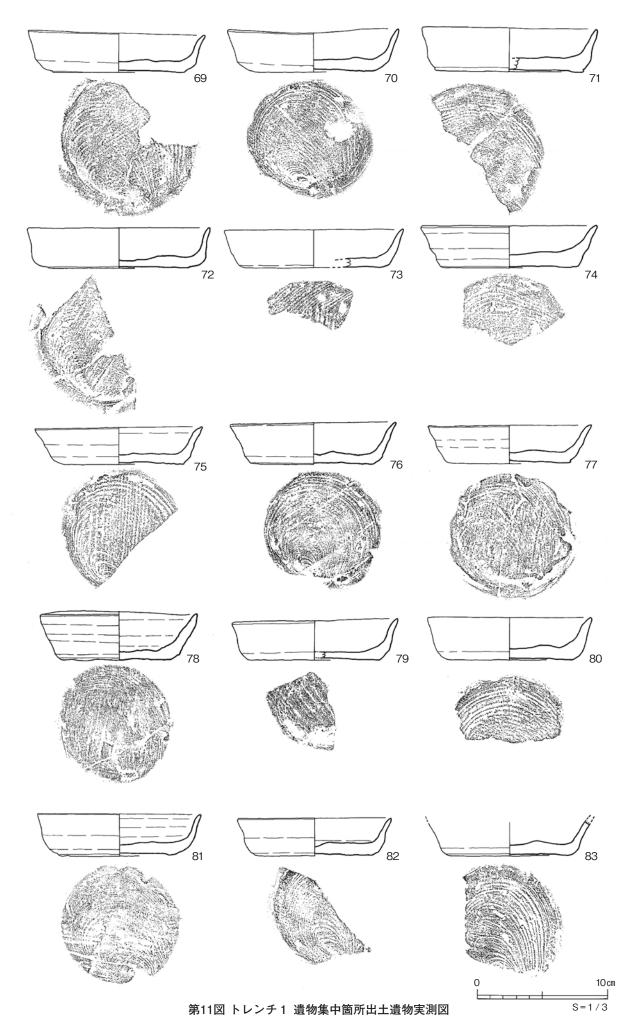




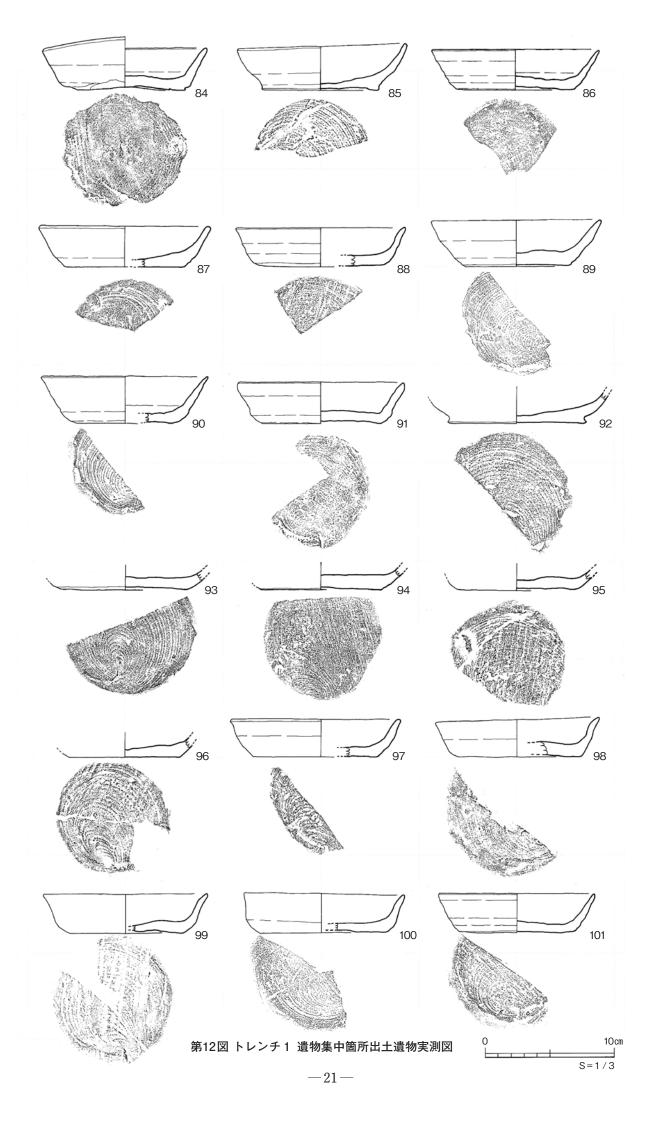
—18—

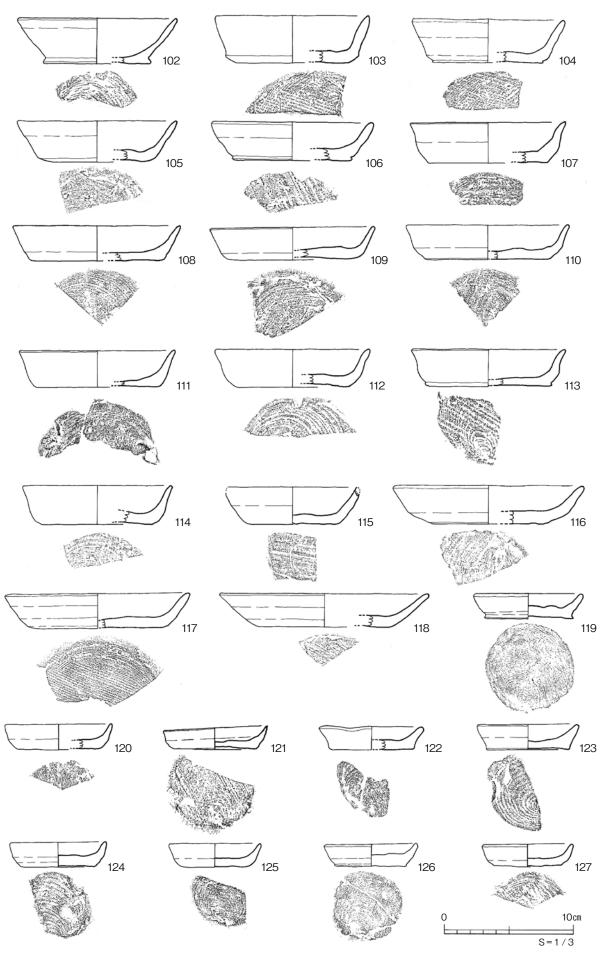


第10図 トレンチ 1 包含層 出土遺物実測図

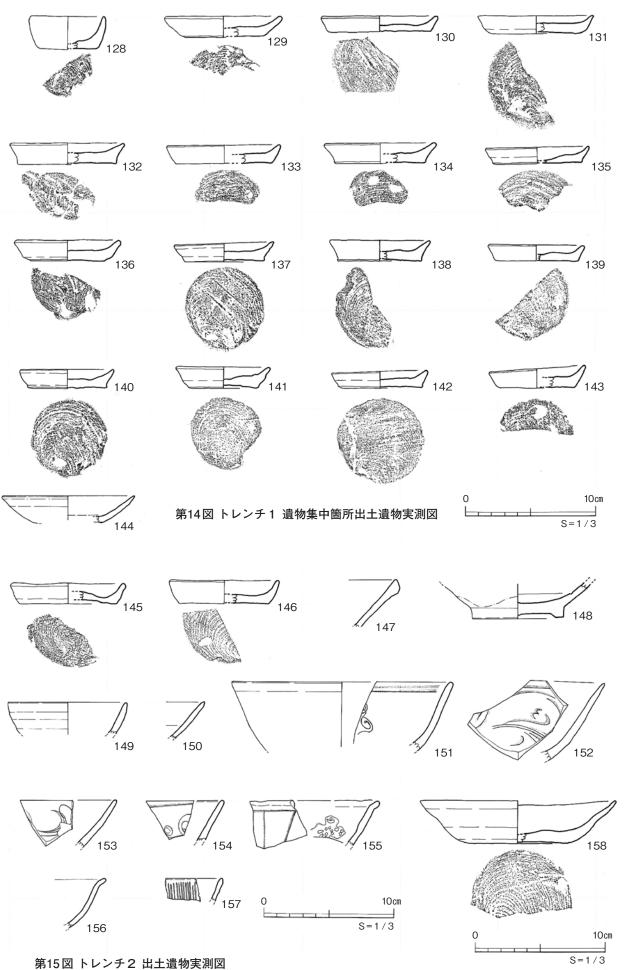


—20 —

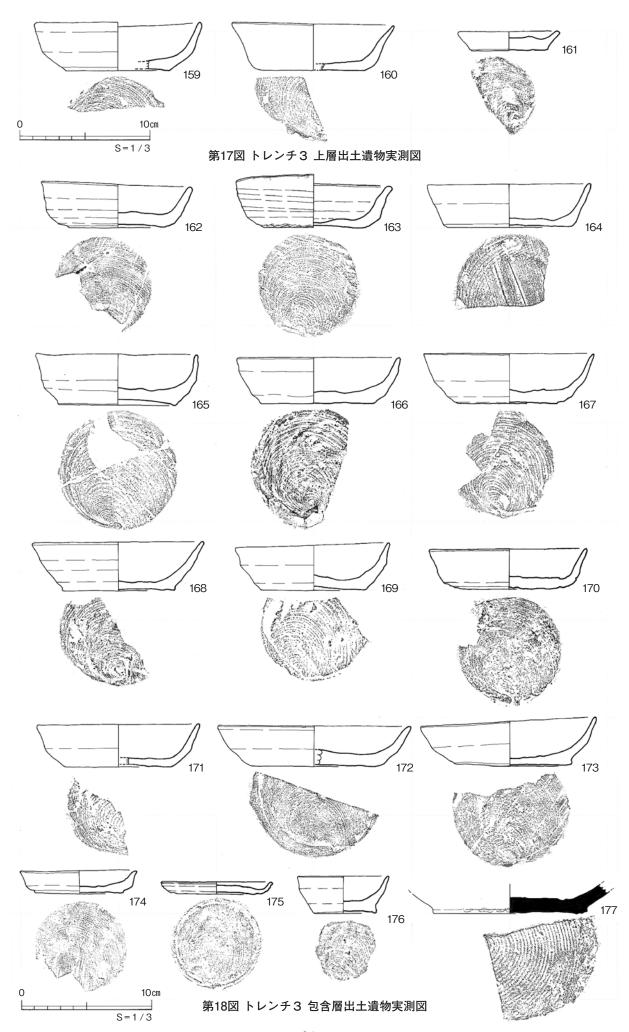


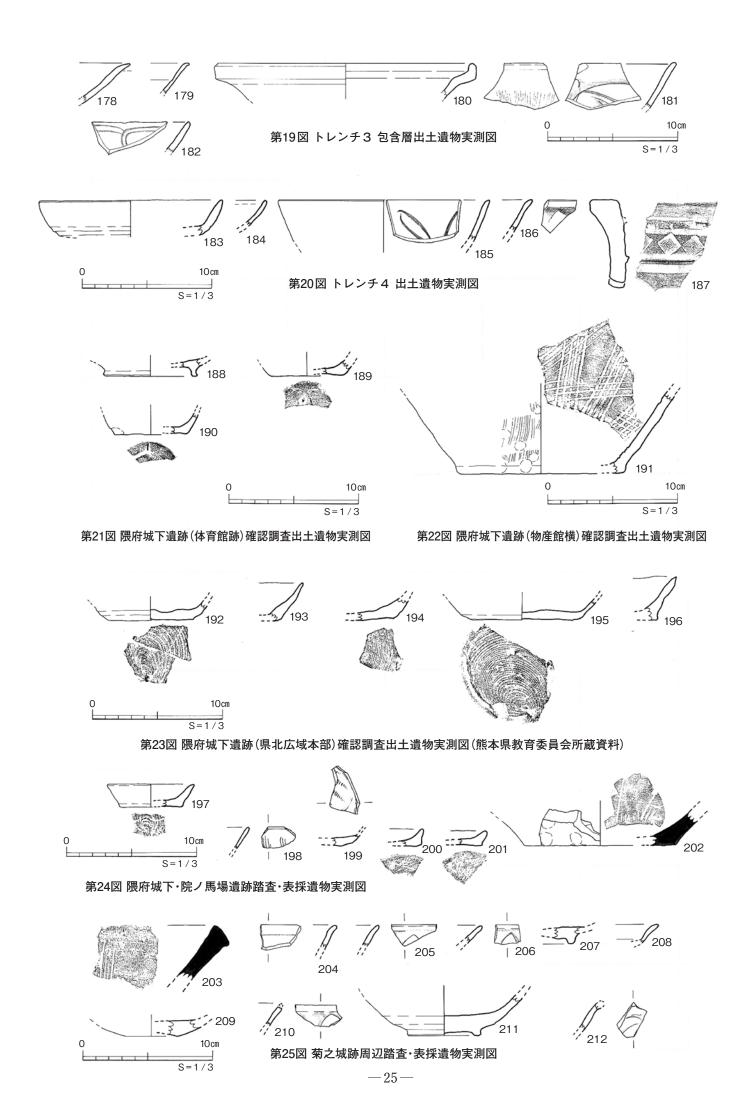


第13図 トレンチ 1 遺物集中箇所出土遺物実測図



第16図 トレンチ3 ピット8内出土出土遺物実測図





2 Marche 100	平	成23年度	調査																								
1	掲載	遺跡名	調査区	層序	器	種				焼成														調整	残存	率	備考
Color Colo	No.		li evas				(cm)	(cm)	(cm)									全雲母	白色粒	赤色粒	黑色粒	-					
	1		1	包含層	土師器	坏	3.2	(12.9)	10.1	良		7.5YR7/4		7.5YR7/4	0	0	0					1~3	ナラ	回転糸切り		80%	板状圧痕
	2	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	3.25	12.8	10.0	良好		5YR6/6		5YR6/6	0	0	0	0	0	0		l~4	ナラ	回転糸切り・指頭症	Ę	95%	
No. 100 No.	3	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	3.3	12.5	9.5	良	にない	5YR7/4	にあい	5YR7/4			0	0	0	0	0	1~2	ナラ	回転糸切り・指頭症	Ę	65%	内外面スス付着
Section Sect	4	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	3.2	12.05		良好		5YR6/6	橙	5YR6/6	0	0		0	0	0		1~2	ナラ	回転糸切り・指頭症	į	90%	幅太い板状圧根、内面スス付着、 底部に糸切り時の粘土塊付着
	5	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	3.2~ 3.4	14.8	10.8)	良		7.5YR7/4	橙	5YR6/6	0		0	0	0	0	:	3~5	ナラ	回転糸切り		75%	板状圧痕
	6	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.8	(14.6)		良	橙	7.5YR6/6	明褐	7.5YR5/6		0		0	0	0		1~3		回転糸切り		65%	底面圧痕
Section Sect	7	菊之城跡		包含層	土師器	坏	3.6~ 3.8	(13.8)	(9.0)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0		0	0	0	0	0			一 回転糸切り・指頭症		50%	特殊
	8	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.65	(12.4)	8.65	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0	0		0	0	0		l~3		糸引き抜き痕		75%	
	9	菊之城跡		包含層	土師器	坏	3.45	12.3	9.0	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6		0		0	0	0		l~4	回転ナ ナラ			80%	板状圧痕、 内外面スス付着
	10	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	土師器	坏	3.05	(13.2)		良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0	0	0	0	0	0		l~4				50%	板状圧痕
	11	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	土師器	坏	残存3.1	_	(10.0)	良		7.5YR5/4		7.5YR5/4				0	0	0		l~8				65%	板状圧痕
1	12	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	土師器	坏	残存1.7	_		良	橙	7.5YR6/6	明褐	7.5YR5/6	0	0		0	0	0		1~2		デ・ 回転ナデ・ 回転糸切り	底部	90%	
14 20.00 14 20.00 15 15 15 15 15 15 15	13	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	土師器	坏	3.4	(12.5)	9.4 ~	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6			0		0			1~3		デ・ 回転ナデ・		30%	幅太い板状圧痕、
13 12 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15	14	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.0~3.5	(12.2)		良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/8				0	0	0		1~3		回転ナデ・	ī	25%	
1	15	菊之城跡		包含層	土師器	坏	残存2.1	_	(9.0)	良	橙	7.5YR7/6	橙	5YR7/6			0		0	0		1~3		デ・ 回転ナデ・	底郊	95%	板状圧痕
7 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	16	菊之城跡	-	包含層	土師器	坏	2.7~ 2.9	(12.4)		良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	0	0	0	0	0	0		1	回転ナ	デ・ 回転ナデ・		30%	板状圧痕
3 日 元	17	菊之城跡		包含層	十師器	坏	3.0	(12.4)		自		10YR8/3	浅苗榾	10YR8/3	0	0		0		0	_	1~2	回転ナ	デ・ 回転ナデ・	ŧ .	30%	板状圧痕
19			_																					デ・ 回転ナデ・回転糸切り			板状圧痕、
2 日 2 日本	Н										にぶい		にぶい									_		デ・ 回転ナデ・回転糸切り			板状圧痕、
2 日 1 日	Н		_																			-		回転ナデ・			
	Н		-																			-		回転ボッツリ			
1	Н		1																			1~2		⁷ 指頭痕·糸引き抜き#			内外面スス付着
	Н		1																0				ナラ	回転糸切り・指頭症	Ę		
1	Н		1																0			1~2	ナラ	回転糸切り			外面墨?付着
1	24	菊之城跡	l	包含層	土師器	坏	3.7	(16.8)	(8.0)	良		7.5YR7/4	世	7.5YR7/4	0	0		0		0		1	ナラ	回転糸切り		15%	底面圧痕
3 電 光地線 1-1-2	25	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	2.8~ 2.9	(16.0)	(11.0)	良		5YR6/6		5YR6/6	0	0		0	0	0		1~3	ナラ	回転糸切り		15%	
2	26	菊之城跡	l	包含層	土師器	坏	2.9~ 3.4	(15.3)	(12.5)	良		7.5YR7/4		7.5YR6/4	0			0	0	0		1~2	ナラ	回転糸切り		30%	
2 号 元と横形 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	27	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	2.8~ 3.1	(14.2)	11.9	良		5YR6/6		7.5YR7/6		0		0	0	0			ナラ	回転糸切り		12%	板状圧痕、 内面スス付着
3	28	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.2~ 3.4	(14.6)	(10.0)	良		10YR7/4		10YR7/4	0	0			0	0		l~6		回転糸切り		30%	
3 名之級語	29	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	1.7	(10.6)	(9.6)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0	0			0	0			回転ナ ナラ	デ・ 回転ナデ・ 回転糸切り		40%	
3 名之級語	30	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	土師器	小皿	1.4	9.55	(8.8)	良		10YR7/4		10YR7/4		0		0	0	0						95%	板状圧痕、 内外面にスス?油煙か?
2 名 2 名 2 編集	31	菊之城跡		包含層	土師器	坏	1.1	(9.4)	7.5	良		10YR7/3		10YR7/3			0	0	0	0				デ・ 回転ナデ・ 回転糸切り・指頭#	Ę	30%	板状圧痕
38 名と地勝	32	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	土師器	坏	1.1	(9.2)	(6.8)	良		10YR7/3		10YR7/3	0	0		0	0	0				デ・ 回転ナデ・		50%	幅太い板状圧痕、 底部穿孔?
3 常 之機勝	33	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	土師器	坏	1.2	(9.2)	(7.6)	良		10YR7/3		10YR8/3	0	0		0	0	0		1	回転ナナラ	デ・ 回転ナデ・		60%	底面圧痕
55 名人総称 1-1-2-7 金合布 上端 上端 上端 上端 上本 上本 上本 上本	34	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	小皿	1.3	(9.1)	6.5	良		7.5YR7/6	橙	7.5YR6/6	0		0	0	0	0		1		デ・ 回転ナデ・		15%	内面に付着物
8 名と映画	35	菊之城跡		包含層	土師器		1.1	8.7	(7.2)	良		10YR7/3		10YR7/3	0			0		0	П		回転ナ	デ・ 回転ナデ・		60%	底面圧痕
37 名之城跡 1-1-7	36	菊之城跡	-	包含層	土師器	小皿	1.55	8.85	6.7	良	にぶい	10YR7/4	にぶい	10YR7/4	0	0		0		0			回転ナ	デ・ 回転ナデ・		95%	板状圧痕
第2級語 12-7 金合館 上野 不 1.8 (8.4) 7.4 良 校 5YR7/6 \	37			包含層	土師器	坏	1.6	8.6	6.35			5YR6/6	にぶい	5YR5/4				0	0	0			回転ナ	デ・ 回転ナデ・		83%	幅細い板状圧痕
第2 城勝 1-2-7 2-5	\blacksquare															0						3		デ 回転ナデ・	£		底面圧痕、内外面スス
40 有之城勝 トンチ 包含層 上部器 小皿 1.5 - 1.6 69 - 7.0 (6.4) 良 にぶい 75 YR7 / 4 (2.5) で 75 YR7 / 6 (2.	Н										にぶい		にぶい								-		回転す	デ・ 回転ナデ・			幅細い板状圧痕、内外
## おとぬか 1.5	Н		-						(6.2 ∼		にぶい		を にぶい									_	回転ナ	デ・ 回転ナデ・			板状圧痕、内面スス付
1 8 8 8 9 1 1 8 8 9 1 1 8 1 8 1 8 1 8 1	Н		トレンチ																			-	回転ナ	デ・ 回転ナデ・	Ę		着、ゆがみが著しい
1	Н		1								にぶい		にぶい									4	ナラ	回転糸切りデ・回転ナデ・			板状圧痕、内面スス付
1	Н		1								黄橙		黄橙			0							ナラ	回転糸切り			着?
1			1								橙		橙										ナラ	回転糸切り			いるか、内外面スス付着
1	44	菊之城跡	l	包含層	土師器	(灯明皿)	1.35	(8.4)	(7.0)	良	黄橙		黄橙	10YR7/4				0	0	0		3	ナラ	回転糸切り		80%	部に糸切り時の粘土塊付着
10 10 10 10 10 10 10 10	45	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	1.2	(8.4)	(7.4)	良	(文典恒 にぶい黄橙		浅黄橙	7.5YR8/4		0	0					_	ナラ	回転糸切り		50%	
1 8 第2帳簿 1 1 2 2 8 1 1 1 1 1 2 8 1 7 2 8 1 2 8 2 1 1 1 1 1 2 8 2 1 2 8 2 1 1 1 1	46	菊之城跡	l	包含層	土師器	小皿	1.5	(8.4)		良	橙	7.5YR6/6		7.5YR7/6				0	0	0		3	ナラ	回転糸切り・指頭症	Ę	50%	
49 菊之城跡 トレンチ 包含層 土師器 小皿 1.4~1.7 (8.2) (5.9) 良 「益い 7.5 YR7/4 橙 7.5 YR7/6 ○ ○ ○ □ 1-2 回転ナデ・回転ボデ・回転ボデ・回転ボデ・回転ボデ・回転を切り 25% 50 菊之城跡 トレンチ 包含層 土師器 坏 1.5 8.2 (7.0) 良 橙 5 YR6/6 橙 5 YR6/6	47	菊之城跡	1	包含層	土師器	小皿	1.1~1.4	(8.4)	7.2)	良		10YR7/4	黄橙	10YR7/3			0	0	0	0		3	ナラ	回転糸切り		20%	ゆがみが著しい
1	48	菊之城跡	l	包含層	土師器	小皿	1.1~1.2	(8.4)		良		10YR7/4		10YR7/3				0	0	0		1	ナラ	回転糸切り・指頭振	Ę	25%	
1	49	菊之城跡		包含層	土師器	小皿	1.4~ 1.7	(8.2)	(5.9)	良		7.5YR7/4	橙	7.5YR7/6	0		0		0	0		l~2		回転糸切り		25%	
1	50	菊之城跡	トレンチ l	包含層	土師器	坏	1.5	8.2	(7.0)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6				0	0	0		2~3	回転ナ			85%	底面圧痕
52 菊之城跡 トレンチ 1 包含層 土師器 坏 1.7 8.2 6.2 良 橙 5YR6/6 橙 5YR6/6 〇 ○ ○ ○ 1 暦17777 回転ナデ・回転サデ・回転サデ・回転サデ・回転サデ・回転サデ・回転サデ・回転サデ・回転サ	51	菊之城跡		包含層	土師器	坏	1.4	8.2	6.4		に <i>ぶい</i> 黄橙	10YR6/4	にぶい 橙	7.5YR7/3			0	0	0			1				90%	板状圧痕、二次被熱?
53 第2域緒 トレンチ 包含層 土飾客 小皿 1.5~1.6 (8.1) 5.8 良 に扱い 7.5YR6/4 に近い 7.5YR6/	52	菊之城跡	トレンチ l	包含層	土師器	坏	1.7	8.2	6.2	良		5YR6/6		5YR6/6	0	0		0	0	0		1		ナデ・ 回転ナデ・		95%	底面圧痕、 ゆがみが著しい
5.1 新力能財 トレンチ 均分屋 1 新型 女 1 cc 9.1 c.7 自 におい 75VD7.4 C 0 0 0 0 1.2 回転ナデ・回転ナデ・回転ナデ・	53	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	小皿	1.5~ 1.6	(8.1)	5.8	良	にぶい	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR6/4		0		0	0	0		1	回転ナ	デ・ 回転ナデ・		30%	
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	54	菊之城跡	_	包含層	土師器	坏	1.65	8.1	6.7	良		7.5YR7/4		7.5YR7/4	0	0		0	0	0		1~2	回転ナ	デ・ 回転ナデ・		90%	幅細い板状圧痕

第1表 出土遺物観察表

						法量※	()	は復元			色	a		1	_		_	胎士				1	調整		_	
(6.6)	遺跡名	調査区	層序	器	:種	器高	口径	底径	焼成	内		夕	ト 面	角閃石	石英	長石		_	赤色粒	黒色粒	砂礫。その	他 内側	外面	残存	率	備考
55	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	小皿	(cm)	(cm) (8.1)	(cm) (6.6)	良	にぶい	10YR6/4	灰黄褐			0		0	0	0	Н	1~2	回転ナデ・	回転ナデ		25%	板状圧痕?
56	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器		1.85	8.1	6.5	良	黄橙 明褐	7.5YR5/6	明褐	7.5YR5/6		0		0	0				サデ 回転ナデ・	回転糸切り		100%	板状圧痕、
57	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器		1.2~1.3	(8.0)	(7.5)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6		0		0	0	0			サデ 回転ナデ・	回転糸切り・指頭痕 回転ナデ・		25%	内外面スス付着 板状圧痕
		トレンチ								浅黄橙	7.5YR8/3	浅黄橙	7.5YR8/3						-		1	サデ 回転ナデ・	回転糸切り			
58	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	1.0	(7.8)	(6.3)	良	にぶい黄橙 にぶい	10YR7/3	にぶい にぶい	10YR7/3		0	0	0	0	0		1	サデ 回転ナデ・	回転糸切り		50%	底面圧痕
59	菊之城跡	1	包含層	土師器	坏	1.3	(7.8)	(5.8)	良	橙	7.5YR7/4	橙	7.5YR7/4	0	0		0	0	0			サデ	回転糸切り			板状圧痕
60	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	小坏	1.65	7.6	6.25	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0			0	0	0		1	サデ	回転糸切り・指頭痕		95%	幅細い板状圧痕 白磁碗Ⅳ類
61	菊之城跡	トレンチ	包含層	白磁	碗	残存5.2	(16.0)	_	良好	灰白	N8	灰白	7.5Y7/1							0	_	施釉	施釉		20%	(11世紀後~12世紀前)
62	菊之城跡	トレンチ	包含層	青磁	碗	6.0	(16.0)	5.3	良好	灰白	N8	オリーブ 灰	5GY6/1							0		施釉	施釉		40%	外面鎬蓮弁文、龍泉窯系 Ⅱ類E期(13世紀中頃)
63	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	青磁	碗	残存5.0	_	_	良好	灰白	N8	明オリープ 灰	5GY7/1							0		施釉	施釉	口縁部	30%	外面鎬蓮弁文、口唇部打ち欠き?、 龍泉窯系 II 類。E期(13世紀中頃)
64	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	青磁	碗 (小碗?)	残存3.3	_	_	良好	灰白	7.5Y8/1	明緑灰	10GY7/1							0		施釉	施釉	口縁部	5%	外面細い蓮弁文、龍泉窯系Ⅲ類、 F期(13世紀中頃~14世紀初)?
65	菊之城跡	トレンチ 1	包含層	白磁	碗	残存4.4	_	_	良好	灰白	N8	灰白	7.5Y7/1							0		施釉	施釉	口縁部	10%	白磁碗IV類 (11世紀後~12世紀前)
66	菊之城跡	トレンチ	包含層	青磁	碗	残存3.1	_	_	良好	灰白	5Y7/1	灰	10Y6/1							0		施釉	施釉	口縁部	5%	内面劃花文、 龍泉窯 I - 4類
67	菊之城跡	トレンチ	包含層	青磁?	碗	残存2.4	_	_	良好	灰白	N8	灰 オリーブ	7.5Y6/2				П			0		施釉	施釉	口縁部	5%	10000000
68	菊之城跡	トレンチ	包含層	瓦質 土器	擂鉢	9.2	(21.8)	(10.5)	良好	灰	5Y6/1	灰	5Y5/1	0			0					11条一単位の	ナデ・ヘラケズリ		20%	13世紀
69	菊之城跡	トレンチ	遺物集中	土師器	坏	3.2	(13.5)	10.0	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0	0		0	0	0		1~3	描目・ナデ 回転ナデ・	回転ナデ・		40%	幅太い板状圧痕、
70	菊之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	3.0	(12.9)	9.0	良	にぶい	5YR7/4	橙	5YR7/6	0	0		0	0	0		1~3	サデ 回転ナデ・	回転糸切り			内面スス付着 板状圧痕、籾状圧痕
71		トレンチ	個所 遺物集中	土師器				(11.2)		橙松							0		0		1~6	サデ 回転ナデ・	回転糸切り			TO THE TOP OF THE PARTY OF THE
-	菊之城跡	l トレンチ	個所 遺物集中		坏坏	3.3	(13.2)		良		7.5YR6/6	橙	7.5YR7/6	0	0		0	0	0			サデー回転ナデ・	回転糸切り		40%	46 4D TC 46
72	菊之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器		3.1	(13.8)	(10.4)	良		7.5YR5/6	明褐	7.5YR5/6	0	0	0					1~2	サデ 回転ナデ・	回転糸切り			板状圧痕
73	菊之城跡	1	個所	土師器	坏	2.8~2.9	(13.5)	(10.2)	良	橙	5YR6/6	橙	7.5YR6/6	0		0	0	0	0		1~4	ナデ	回転糸切り		15%	底面圧痕
74	菊之城跡	トレンチ	遺物集中個所	土師器	坏	3.2	(13.4)	(10.2)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0	0		0	0	0		1~4	ナデ	回転糸切り		20%	Agram, Agrahir at
75	菊之城跡	トレンチ	遺物集中 個所	土師器	坏	2.9	12.8	9.2	良	にぶい 橙	7.5YR7/4	橙	5YR7/6	0		0	0	0	0		1~2	回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		65%	幅細い板状圧痕、 内外面赤彩
76	菊之城跡	トレンチ 1	遺物集中 個所	土師器	坏	3.3	12.7	9.6	良	橙	5YR6/6	にぶい 橙	5YR6/4	0			0	0	0		1~4	回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		75%	板状圧痕
77	菊之城跡	トレンチ l	遺物集中 個所	土師器	坏	3.1	12.5	9.2	良	にぶい 橙	7.5YR7/4	にぶい 橙	5YR7/4				0	0	0		1	回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		90%	板状圧痕
78	菊之城跡	トレンチ	遺物集中 個所	土師器	坏	3.75	(11.8)	8.8	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	0		0	0	0	0		1~2	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・回転糸切り・ 指頭痕・糸引き抜き痕		80%	板状圧痕
79	菊之城跡	トレンチ	遺物集中 個所	土師器	坏	2.9~3.2	(12.6)	(10.0)	良	橙	7.5YR7/6	橙	5YR6/6	0	0		0	0	0	П	1~3	回転ナデ・	回転ナデ・回転糸切り・ナデ		25%	幅太い板状圧痕、 内面赤彩
80	菊之城跡	トレンチ	遺物集中個所	土師器	坏	3.2	(12.6)	(9.6)	良	橙	7.5YR6/6	にぶい	7.5YR5/4		0		0	0	0		1~2	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・		25%	1.1 田 刘州
81	菊之城跡	トレンチ	遺物集中	土師器	坏	3.35	12.35	9.15	良		7.5YR7/6	褐橙	7.5YR7/6	0	0	0	0	0	0	П	1~4	回転ナデ・	回転糸切り・指頭痕回転ナデ・		80%	板状圧痕
82	菊之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	2.95	(11.8)	(8.9)	良	にぶい	7.5YR7/4	にぶい	7.5YR7/4	0	0		0	0	0		1~4	サデ 回転ナデ・	回転糸切り・ナデ 回転ナデ・			
83		トレンチ	個所 遺物集中	土師器			(11.0)			橙	5YR6/4	橙	7.5YR6/4								1~2	回転ナデ・	回転糸切り 回転ナデ・回転糸	the dry		
	菊之城跡	トレンチ	個所 資物集中		坏	残存2.7		(9.0)	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	0	0		0	0	0			サデ 回転ナデ・	切り・指頭痕 回転ナデ・回転糸切り・	底部		外面スス付着 板状圧痕、
84	菊之城跡	トレンチ	個所 動樂中個	土師器		4.05	12.3	8.75	良	橙にぶい	5YR6/6	性にぶい	5YR6/6	0	0		0	0	0		1~2	サデ 回転ナデ・	指頭痕・糸引き抜き痕 回転ナデ・		80%	内外面油煙か? 工具による圧痕?
85	菊之城跡	1	SDサブトレンチ	土師器	坏	3.1~3.6	(13.0)	(8.8)	良	黄橙にぶい	10YR6/4	黄橙にぶい	10YR6/4			0	0	0	0		2~3	サデ	回転糸切り		30%	(板状圧痕?)
86	菊之城跡	1	遺物集中個所	土師器	坏	3.1	(12.8)	(9.0)	良	橙	7.5YR7/4	橙	7.5YR7/4	0		0	0	0	0		1~6	ナデ	回転糸切り		25%	板状圧痕
87	菊之城跡	トレンチ 1	個所	土師器	坏	3.0~3.2	(12.8)	(8.8)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6				0	0	0		1~2	回転ナデ・ナデ	回転糸切り		15%	
88	菊之城跡	1	遺物集中 個所	土師器	坏	2.9~3.0	(12.8)	(8.6)	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6		0		0	0	0			回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り		15%	板状圧痕
89	菊之城跡	トレンチ l	遺物集中 個所	土師器	坏	3.5	(12.8)	(7.7)	良	明赤褐	5YR5/6	にぶい 赤褐	5YR5/4				0	0	0		1	回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・回転糸切り・ 指頭痕・糸引き抜き痕		40%	内外面スス付着
90	菊之城跡	トレンチ 1	遺物集中 個所	土師器	坏	3.6	(12.8)	(7.3)	良	にぶい 橙	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR6/4		0		0	0	0		1~4	回転ナデ	回転ナデ·回転糸 切り・指頭痕		40%	底面圧痕
91	菊之城跡	トレンチ 1	遺物集中 個所	土師器	坏	3.15	(12.6)	(9.0)	良	にぶい 橙	7.5YR7/4	にぶい 橙	7.5YR7/4				0	0	0		1~3	回転ナデ・	回転ナデ・回転糸切り・ 指頭痕・糸引き抜き痕		50%	底面圧痕、 内外面スス付着
92	菊之城跡	トレンチ	遺物集中 個所	土師器	坏	残存2.4	_	(9.2 ~ 10.0)	良		7.5YR6/6	明赤褐	5YR5/6	0	0	0	0	0	0		1~5	回転ナデ	回転ナデ·回転糸 切り・指頭痕	底部	50%	107100
93	菊之城跡	-	遺物集中個所	土師器	坏	残存1.5	_	9.4	良	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR6/6	0		0	0	0	0	П	1~2	回転ナデ・	回転ナデ・回転糸切り	底部	50%	内外面スス付着?
94	菊之城跡	-	遺物集中	土師器		残存1.8	_	9.1 ~	良	にぶい	7.5YR6/4	にぶい	7.5YR6/4	0			0	0	0		1~2	回転ナデ・	回転ナデ・	底部		
95	菊之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	残存1.7		9.3 (8.6 ~	良	橙橙	7.5YR7/6	橙橙	5YR6/6	0	0	0	0	0	0	H	1~3	回転ナデ・	回転糸切り	底部	80%	幅太い板状圧痕、
	菊之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器			_	8.8) 8.1 ~	良	にぶい					0	0	0	0	0		1~4	サデ 回転ナデ・	切り・指頭痕 回転ナデ・回転糸	底部		内面赤彩 板状圧痕、外面赤彩
96		1	個所 遺物集中			残存1.5		8.3		橙	7.5YR7/4	橙	7.5YR7/6									ナデ 回転ナデ・	切り・指頭痕 回転ナデ・回転糸	底部		
97	菊之城跡	1	遺物集中	土師器	坏	2.7~2.9	(12.6)	(9.0)	良	橙にぶい	5YR6/6	を にぶい	7.5YR6/6		-	0	0	0	0		1~2	サデ	切り・指頭痕			内面スス付着
98	菊之城跡	1	個所	土師器		2.7~3.0	12.6)	(9.3) 8.9 ~	良	橙にぶい	7.5YR7/4	橙	7.5YR7/4		0		0	0	0		1~2	回転ナデ・	回転糸切り・指頭痕			内面スス付着
99	菊之城跡	1	遺物集中 個所	土師器	坏	3.0	(12.4)	8.9 ~ 9.1	良	他	7.5YR6/4	橙	7.5YR6/6	0			0	0	0			ナデ	回転糸切り		65%	板状圧痕
100	菊之城跡	1	遺物集中個所	土師器	坏	2.8~3.1	(12.2)	(9.4)	良		7.5YR5/6	橙	7.5YR6/6	0			0	0	0		1~2	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・回転糸切り		30%	板状圧痕
101	菊之城跡	1	遺物集中 個所	土師器	坏	3.0	(12.0)	(8.9)	良	にぶい 橙	7.5YR7/4	にぶい 橙	7.5YR7/4				0	0	0		1~2	回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		40%	幅太い板状圧痕
102	菊之城跡	トレンチ l	遺物集中 個所	土師器	坏	3.1~3.5	(12.0)	(8.1)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0			0	0	0		1~4	回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り		15%	内外面スス付着
103	菊之城跡	トレンチ l	遺物集中 個所	土師器	坏	3.3~3.6	(11.6)	(8.7)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0			0	0	0		1~2	回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・ナデ		15%	幅細い板状圧痕
104	菊之城跡	トレンチ	遺物集中 個所	土師器	坏	3.3	(11.4)	(8.3)	良	にぶい 褐	7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR5/3			0	0	0	0		1	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		12%	幅太い板状圧痕、 内外面スス付着
105	菊之城跡		遺物集中個所	土師器	坏	3.2	(12.1)	(6.8)	良		7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6		0	0	0				1~3	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り		15%	板状圧痕(不明瞭)
106	菊之城跡	-	遺物集中	土師器	坏	3.0	(12.0)	(8.8)	良	にぶい	7.5YR5/3	にぶい	7.5YR5/4			0	0	0	0		1~4	回転ナデ	回転ナデ・		15%	板状圧痕、
107	菊之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	3.1	(11.8)	(9.0)	良	橙橙	7.5YR6/6	にぶい	7.5YR6/4		0		0	0	0		1~2	回転ナデ・	回転糸切り・指頭痕回転ナデ・		12%	内面スス付着板状圧痕、
108	菊之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器		2.6~3.0	(12.6)	(10.0)	良	にぶい	7.5YR7/4	橙橙	7.5YR7/6	0	0	0		0	0		1~2	サデ 回転ナデ・	回転糸切り			内外面スス付着 板状圧痕、外面赤彩
Н		トレンチ	個所 遺物集中		坏坏					橙 にぶい		にぶい							0	H		サデ 回転ナデ・	回転糸切り			
109	菊之城跡	i	個所	土師器	^小	2.5	(12.4)	(8.4)	良	橙	7.5YR6/4	橙	7.5YR6/4	L		0	0	0	Γ_{Ω}		1~2	ナデ	回転糸切り		20%	板状圧痕

第1表 出土遺物観察表

						y. e. w	<i>(</i>)	11.00				am						n/. 1					200 dela		_	
揭載	遺跡名	調査区	層序	器	種	法量※(器高	口径	は復元	焼成	内		.調	. 面	角閃石	石英	長石		胎土	赤色粒	明本計 新	標で	0他 内側	外面	残存率	K.	備考
110 巻	j之城跡	トレンチ	遺物集中	土師器	坏	(cm) 3.6	(cm) (12.2)	(cm) (9.2)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6		(1)%	101	× ANF	O O	#E#		-2	回転ナデ	回転ナデ・	1	15%	板状圧痕(不明瞭)
	i之城跡	l トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏		(11.7)	(9.2)							0	0		0	0		~4	サデ 回転ナデ	回転糸切り 回転ナデ・回転糸切り・	_	25%	
		l トレンチ	個所 遺物集中	土師器	小皿	2.7~ 2.8		(8.4)	良	橙	7.5YR7/6 7.5YR7/6		7.5YR7/6 7.5YR7/6		0	0	0		0		~2	ナデ 回転ナデ	ナデ·指頭痕 回転ナデ・		20%	板状圧痕(不明瞭)
	i之城跡	l トレンチ	個所 遺物集中	土師器	•		(11.6)	(9.0)	良	橙 にぶい		L 3510		0				0	0		+	ナデ 回転ナデ	回転糸切り・指頭痕 回転ナデ・		-	幅十)、拓华广布
	i之城跡	1 トレンチ	個所 遺物集中		坏	2.8~ 2.9	(11.5)		良	橙	7.5YR6/4	但	7.5YR6/4			0	0	0			~3	サデ 回転ナデ	回転糸切り・指頭痕 回転ナデ・			幅 出い 板状 圧痕
	i之城跡	l トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	2.9~ 3.0	(11.2)	(8.1)	良	橙	7.5YR6/6		7.5YR6/6	0	0	0	0	0	0		~2	サデー回転ナデ	回転糸切り	160 XII	12%	内外赤彩
	i之城跡	1 トレンチ	個所 遺物集中	土師器	小皿	3.9	(9.8)	(7.4)	良		7.5YR6/6		7.5YR6/6			0	0	0	0		~2	ナデ	回転糸切り	胴部 4	25%	板状圧痕
	i之城跡	l トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	2.7~ 3.1	(14.2)	8.4)	良	橙	7.5YR6/6		7.5YR6/6	0	0			-	0		~3	ナデ	回転糸切り・指頭痕		20%	糸切り痕をナデ消した後、
	i之城跡	1 トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	2.6	(13.8)	(9.1)	良	橙	7.5YR6/6		7.5YR5/6		0	_		0	0		~3	ナデ	回転糸切り		25%	幅細い板状圧痕
	i之城跡	1 トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	2.6~ 2.8	(15.6)	(9.8)	良	明黄褐	10YR7/6		7.5YR7/6			0		0	0	1	~2	回転ナデ	回転糸切り	-	12%	板状圧痕
	i之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	小皿	1.95	8.0 (7.8 ~	6.8	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0	0		0	0	0		1	回転ナデ	指頭痕・糸引き抜き痕 回転ナデ・	9		内外面油煙か?
120 菊	i之城跡	1	固初采中 置物集中	土師器	坏	1.9~ 2.1	8.0)	(6.4)	良	橙にぶい	5YR6/6	橙 にぶい	5YR6/6		0		0	0	0	l·	~3	サデーロ転ナデ	回転糸切り	2	25%	内外面スス付着板状圧痕、
121 菊	i之城跡	トレンチ	個所	土師器	坏	1.8	7.9	6.3	良	橙	7.5YR7/4	を を にぶい	7.5YR7/4			0	0	0	0	l-	~2	ナデ	回転糸切り	6	55%	内外面スス付着
122 菊	i之城跡	トレンチ	遺物集中個所	土師器	坏	1.5~1.8	(7.6 ~ 7.8)	(6.0 ~ 6.4)	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/4	0	0		0	0	0	ŀ	~2	回転ナデ	回転糸切り	2	20%	内外面スス付着
123 薬	i之城跡	トレンチ	遺物集中個所	土師器	小皿	1.8~ 1.9	(7.6)	(6.2)	良	にぶい 黄橙	10YR6/4	にぶい 黄橙	10YR7/4	0	0		0	0	0		2	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り・指頭痕	4	10%	
124 菊	i之城跡	トレンチ l	遺物集中個所	土師器	小皿	1.8	(7.2)	(5.6)	良	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	0	0		0	0	0		1	回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕	3	30%	had the send of the
125 菊	i之城跡	トレンチ	遺物集中個所	土師器	小皿	1.8	(7.2)	(4.8)	良	にぶい 橙	7.5YR6/4	橙	7.5YR7/6		0		0	0	0	l-	~3	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り	3	30%	板状圧痕、 内面スス付着
126 菊	j之城跡	トレンチ l	遺物集中 個所	土師器	坏	1.8	7.1	5.5	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6		0	0	0	0	0	1	~4	回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕	9	90%	板状圧痕
127 菊	j之城跡	トレンチ 1	遺物集中 個所	土師器	小皿	1.7~1.9	(6.7)	(5.1)	良	橙	7.5YR7/6	にぶい 橙	7.5YR7/4		0	0	0	0	0		1	回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り	3	30%	幅太い板状圧痕?
128 菊	i之城跡	トレンチ 1	遺物集中 個所	土師器	坏	2.5	(5.5)	(4.0)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6		0		0	0	0	\Box	1	回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕	1	15%	
129 菊	j之城跡	トレンチ l	遺物集中 個所	土師器	坏	1.4~ 1.6	(8.6)	(6.4)	良	にぶい 黄橙	10YR7/4	にぶい 黄橙	10YR7/4	0	0			0	0	1-	~6	回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕	2	20%	
130 菊	j之城跡	トレンチ 1	遺物集中 個所	土師器	小皿	1.2	(8.6)	(7.7)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6		0			0	0			回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り	1	15%	板状圧痕
131 菊	j之城跡	トレンチ	遺物集中 個所	土師器	坏	1.4	(8.6)	(6.4)	良	にぶい 橙	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR6/4	0			0	0	0		1	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り・ 糸引き抜き痕	4	10%	板状圧痕
132 菊	i之城跡	トレンチ	遺物集中個所	土師器	坏	1.4~ 1.7	(8.5)	(7.0 ~ 7.5)	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0			0	0	0	l-	~3	回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り	2	25%	板状圧痕
133 菊	i之城跡	トレンチ	遺物集中個所	土師器	坏	1.4	(8.4)	(7.2)	良	にぶい 黄橙	10YR6/4	にぶい 黄橙	10YR6/4		0		0	0	0		2	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り	1	15%	板状圧痕(不明瞭)
134 菊	i之城跡	トレンチ	遺物集中個所	土師器	坏	1.5~ 1.6	(8.0 ~ 8.4)	(6.0 ~ 6.6)	良	にぶい橙	7.5YR6/4		7.5YR6/6		0		0	0	0	l·	~2	回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕	1	15%	内外面スス付着
135 菊	j之城跡	トレンチ	遺物集中	土師器	小皿	1.1~1.3	(7.8)	(6.9)	良	にぶい	7.5YR6/4	橙	7.5YR7/6	0	0		0	0	0			回転ナデ	回転ナデ・	2	25%	幅太い板状圧痕?
	j之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	1.4~ 1.6	(7.8)	(5.6)	良	を にぶい	7.5YR6/4	にぶい	7.5YR6/4			0	0	0	0	2.	~3	回転ナデ	回転糸切り	4	10%	板状圧痕
	j之城跡	トレンチ	遺物集中	土師器	坏	1.6	7.6	6.1	良	橙橙	5YR6/6	橙橙	2.5YR6/6	0	0		0	0	0		1	ロ転ナデ	糸引き抜き痕	9	90%	板状圧痕
	i之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	1.6	(7.5)	(6.4)	良	にぶい	7.5YR6/4	にぶい	7.5YR6/4	_	0	0	0	0	0		1	回転ナデ	回転糸切り		10%	板状圧痕、
	i之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	小皿	1.2	(7.2)	(6.3)	良	を にぶい	7.5YR6/4	橙 にぶい	7.5YR7/4		0	0	0	0	0		~3	サデ 回転ナデ	回転糸切り・指頭痕回転ナデ・			内外面スス付着 内外面スス付着
	i之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	1.5	7.2	6.0	良	橙にぶい	7.5YR7/4	橙 にぶい	7.5YR7/4		0	0	0	0	0		~3	サデ 回転ナデ	回転糸切り・指頭痕 回転ナデ・			内外面スス付着
	i之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	1.6	(7.2)	5.4	良	橙橙	5YR6/6	橙橙	5YR6/6	0	0	0	0	0	0		~2	サデ 回転ナデ	回転糸切り・指頭痕 回転ナデ・		30%	板状圧痕、
		l トレンチ	個所 遺物集中							にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4								+	サデ 回転ナデ	回転糸切り・指頭痕 回転ナデ・			内面スス付着 板状圧痕、
	i之城跡	l トレンチ	個所 遺物集中	土師器	小皿	1.35	7.15 (7.0 ~	6.5 (5.2 ~	良	橙にぶい	5YR6/6	橙 にぶい	5YR6/6	0	0	0	0	0	0		~5	ナデ	回転糸切り・指頭痕 回転ナデ・回転糸切り・		95%	内外面油煙か?
	i之城跡	トレンチ	個所 遺物集中	土師器	坏	1.3~ 1.8	7.2)	5.6)	良	橙	7.5YR6/4	橙	7.5YR6/4		0	0	0	0	0		~3	ナデ	ナデ・指頭痕			内外面スス付着 口禿、白磁皿IX類、
	i之城跡	l トレンチ	個所	白磁	Ш	残存2.1	(10.2)		良好	灰白にぶい	7.5Y8/1	灰白にぶい	5GY8/1	_	_						甲	施釉曜回転ナデ	施釉回転ナデ・回転糸	口縁部 1		13世紀中~14世紀初
	i之城跡	2	包含層		灯明皿		(8.5)	(7.5)	良	黄橙	10YR7/4	黄橙	10YR7/4	0	0					l-		サデ	切り			口縁部スス付着
146 菊	i之城跡	トレンチ	包含層	土師器	小皿	1.7~ 1.9	(8.2)	(6.8)	良	橙	7.5YR7/6	明黄褐	10YR6/6			0	0		0		1	サデ	回転糸切り・指頭痕	3	30%	スス付着、内外面赤彩 白磁碗Ⅳ類
	j之城跡	トレンチ	包含層		碗	残存3.8	-	_	良好	灰白	N8	灰白	5Y7/1							0		施釉	施釉		D%	白磁碗Ⅳ類 (11世紀後~12世紀前) 白磁碗Ⅳ類
148 菊	i之城跡	トレンチ	包含層	白磁	碗	残存2.7	_	7.1	良好	灰白	N8	灰白	5Y8/1							0		施釉	施釉	底部 2	20%	(11世紀後~12世紀前)
149 菊	j之城跡	トレンチ	包含層	白磁	碗	残存2.4	(9.2)	_	良好	灰白	7.5Y8/1	灰白	7.5Y7/1							0		施釉	施釉	口縁部:	5%	ビロースクタイプ? 福建省産、14世紀
150 菊	i之城跡	トレンチ	包含層	白磁	碗	残存2.8	_	_	良好	灰白	N8	灰白	7.5Y8/1							0		施釉	施釉	口縁部:	5%	ala 77 dal -H-
151 菊	j之城跡	トレンチ 2	包含層	青磁	碗	残存5.3	(16.9)	_	良好	灰白	5Y7/1	灰オ リーブ	5Y6/2							0		施釉	施釉	口縁部 1	10%	内面劃花文、 龍泉窯 I - 4類
152 菊	j之城跡	トレンチ 2	包含層	青磁	碗	残存6.1	_	_	良好	にぶい 黄橙	10YR7/2	にぶい 黄	2.5Y6/3									施釉	施釉	口縁部 1	10%	内面ヘラ彫の花文? 龍泉窯 I - 2類
153 菊	i之城跡	トレンチ 2	包含層	青磁	碗	残存3.6	_	-	良好	灰白	2.5Y7/1	灰オ リーブ	7.5Y6/2							0		施釉	施釉	口縁部:	5%	龍泉窯系 I -2類
154 菊	j之城跡	トレンチ 2	包含層	青磁	碗	残存3.1	_	_	良好	灰白	N8	明緑灰	7.5GY7/1								T	施釉	施釉	口縁部:	5%	内面劃花文、 龍泉窯系 I -4類
155 菊	j之城跡	トレンチ	包含層	青磁	碗	残存3.6	-	-	良好	灰白	N7	緑灰	7.5GY6/1							0		施釉	施釉	口縁部:	5%	輪花、内面花文(陽刻)? 龍泉窯系14世紀後
156 菊	j之城跡	トレンチ	包含層	青磁	碗	残存3.8	-	-	良好	灰白	N8	オリー ブ灰	5GY7/1					0				施釉	施釉	口縁部:	5%	龍泉窯系IV類G期 (14世紀初~15世紀前)?
157 菊	j之城跡	トレンチ	包含層	青磁	碗	残存1.8	_	-	良好	灰白	7.5Y8/1	オリー ブ黄	5Y6/3									施釉	施釉	口縁部:	5%	外面細かい縦の櫛目文、 同安窯系 I 類、12世紀後半
158 菊	j之城跡	トレンチ	SP4	土師器	坏	3.2	(14.9)	(7.6 ~ 7.7)	良	にぶい 黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/3	0		0	0	0	0	1	~2	回転ナデ	回転ナデ・回転糸切り	4	10%	板状圧痕、内面赤彩
159 菊	j之城跡	トレンチ	上層・SDサ ブトレンチ	土師器	坏	3.4~ 3.7	(12.5)	(7.9)	良	にぶい 黄橙	10YR6/4	にぶい 黄橙	10YR7/4			0	0	0	0	l-	~2	回転ナデ		2	25%	
160 菊	j之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.4~ 3.7	(12.3)	(7.8)	良	明褐	7.5YR5/6		7.5YR6/6	0	0			0	0		2	回転ナデ	同転 十字。	1	15%	内面スス付着
	j之城跡	トレンチ	包含層		坏	1.5	(7.4)	(5.5 ~	良		7.5YR5/6		7.5YR5/6		0	0	0	0	0	l·	~3	回転ナデ	回転ポ切り		10%	
	i之城跡	トレンチ	包含層		坏	3.1~ 3.6	(11.3)	(7.3)	良	にぶい	7.5YR6/4		7.5YR6/6		0		0	0	0			回転ナデ			30%	底面圧痕、
	i之城跡	3 トレンチ	包含層		坏	4.05	11.55	7.95	良	橙橙	7.5YR7/6		7.5YR7/6		0		0		0	1-	~2	ロ転ナデ	回転糸切り		3594	内面スス付着板状圧痕、口縁部油煙付着、
	i之城跡	トレンチ	包含層		坏	3.3	(12.4)	(9.0)	良	橙	7.5YR7/6		7.5YR6/8	0	0		0	0	0		~2	サデ 回転ナデ			050/	内外面剥離 板状圧痕、
		3			100	J	2.1/	(5.5)	_^_	1.35		1.55	110/0	Ľ	<u> </u>			Ľ	\bot		-1	ナデ	回転糸切り		/-3	内面スス付着

第1表 出土遺物観察表

掲載						法量※	()	は復元			色	調						胎土				Т		調整			
載 No.	遺跡名	調査区	層序	器	種	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	焼成	内	面	夕	- 面	角閃石	石英	長石	全雲母	白色粒	赤色粒	黑色粒	砂礫 (mm) そ	の他	内側	外面	残存	率	備考
165	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	土師器	坏	3.8~ 3.9	12.0 ~ 12.3	8.9	良	橙	7.5YR7/6	にぶい 橙	7.5YR7/4		0		0		0				回転ナデ ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		75%	ゆがみが著しい、内面籾 状圧痕、内外面スス付着
166	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	土師器	坏	3.5∼ 3.8	(12.3)	8.0	良	橙	5YR6/6	橙	7.5YR6/6		0		0		0		2		回転ナデ ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		50%	板状圧痕? 内外面スス付着
167	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	土師器	坏	3.7~ 4.0	(12.9)	7.7	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	0	0		0	0	0		5		回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		50%	内外面スス付着
168	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.7~ 4.0	(13.9)	(8.6)	良	にぶい 黄橙	10YR7/4	明黄褐	10YR7/6	0	0		0	0	0		1		回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		25%	板状圧痕、 内面スス付着
169	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.2~ 3.6	(11.7~ 11.9)	(7.9 ~ 8.1)	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6				0	0	0		~10		回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		40%	板状圧痕
170	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.1	(12.1)	(9.0)	良	橙	7.5YR7/6		7.5YR7/6	0	0	0	0	0	0		1~2		回転ナデ· ナデ	回転ナデ・回転糸切り・ 糸引き抜き痕		60%	底面圧痕、内面赤彩
171	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	土師器	坏	3.2~ 3.5	(12.2)	(8.2)	良	明黄褐	10YR6/6	にぶい 黄橙	10YR6/4	0			0	0	0		1		回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		25%	
172	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	坏	3.1~ 3.2	(14.6)	(9.4)	良	にぶ 橙	7.5YR7/4	にぶい 黄橙	10YR7/2	0	0	0	0	0	0		l~3		回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り		50%	板状圧痕、内外面赤彩
173	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	土師器	坏	3.0~ 3.7	(13.3)	9.0	良	に <i>ぶい</i> 黄橙	10YR7/4	にぶい 黄橙	10YR6/3				0	0	0		1~2		回転ナデ	回転ナデ 回転糸切り		65%	板状圧痕か、特殊
174	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	小皿	1.7~ 1.9	8.8	6.6	良	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	0			0	0	0		1		回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕		75%	板状圧痕
175	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	小皿	0.95	8.25	6.05	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	0	0	0	0	0			1~2		回転ナデ・ ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り		90%	
176	菊之城跡	トレンチ	包含層	土師器	小坏	2.85	(6.8)	4.85	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	0			0	0	0				回転ナデ· ナデ	回転ナデ 回転糸切り		85%	内外面スス付着、底部に 糸切り時の粘土塊付着
177	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	須恵器	鉢?	残存2.3	ı	(11.8)	良好	内面: 灰	N6	外面: 灰	N6					0			3~5		ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り	底部	25%	東播、13世紀
178	菊之城跡	トレンチ	包含層	白磁	碗	残存3.1	I	_	良好	灰白	N8	灰白	5Y7/1							0			施釉	施釉	口縁部	10%	白磁碗IV類 (11世紀後~12世紀前)
179	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	白磁	碗	残存2.4	-	_	良好	灰白	7.5Y8/1	灰白	5Y7/2							0			施釉	施釉	口縁部	5%	V類?
180	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	白磁	口折 Ⅲ?	残存2.7	(20.0)	_	良好	灰白	2.5Y8/1	灰白	5Y7/2										施釉	施釉	口縁部	5%	福建省閩江流域で生産、 14世紀
181	菊之城跡	トレンチ 3	包含層	青磁	碗	残存3.5	-	_	良好	灰白	N8	灰	10Y7/2							0			施釉	施釉	口縁部	10%	内面へラ彫の花文? 龍泉窯 I - 2類
182	菊之城跡	トレンチ	包含層	青磁	碗	残存2.4	_	_	良好	灰白	N8	灰オ リーブ	7.5Y6/2							0			施釉	施釉	口縁部	5%	輪花、内面飛雲文、 龍泉窯 I - 4b類

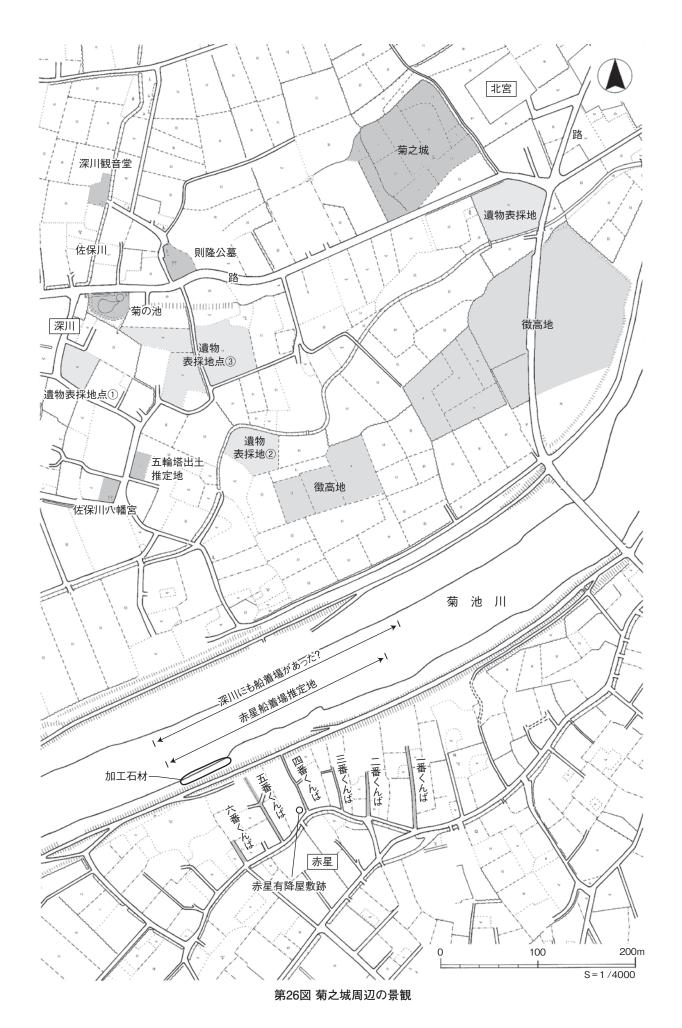
平成27年度調査

担	Ι,	遺跡名	調査区	層序	翌	£df:	法量※	()	は復元	焼成		色	調						胎士						調整	残存	vår	備考
No.	1	旦助石	両正区	阳沙	fier	俚	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	736/700	内	面	外	面	角閃石	石英	長石	金雲母	白色粒	赤色粒	黑色粒	砂礫 (mm)	その他	内側	外面	7×11-	nqu.	加考
18	弱.	之城跡	トレンチ 4	2号溝	土師器	坏	残存2.7	(14.0)	(10.9)	良	浅黄橙	7.5Y7/1	浅黄橙	5Y6/3	0		0	0	0	0				回転ナデ	回転ナデ	口縁部	15%	中世
18	菊.	之城跡	トレンチ 4	2号溝	白磁	Ш?	残存2.0	_	_	良好	灰白	2.5Y8/1	灰白	5R8/1 (透明釉)							0			施釉	施釉	口縁部		福建省郡武窯系列、森田編年白磁D群、 15世紀代(14~16世紀)、貫入あり
18	菊	之城跡	トレンチ 4	2号溝	青磁	碗	残存3.2	(16.2)	_	良好	灰白	2.5Y8/2	にぶい 黄	2.5Y6/4							0			施釉	施釉	口縁部		龍泉窯系 I - 2類、 内面片彫蓮花文
18	菊	之城跡	トレンチ 4		青磁		残存2.5	-	_		灰白	N7	オリーブ 灰	10Y6/2							0			施釉	施釉	口縁部		龍泉窯系Ⅱ類、 外面片彫蓮弁文
18	菊.	之城跡	トレンチ 4	2号溝	瓦質 土器		残存5.8 ~ 6.12	_	_	良好	灰白	2.5Y8/7	灰白	7.5YR8/6	0	0			0					ナデ・ ハケメ?	ナデ・ 菱形スタンプ	口縁部	_	窓をもつ、風炉であれば 15世紀のものか

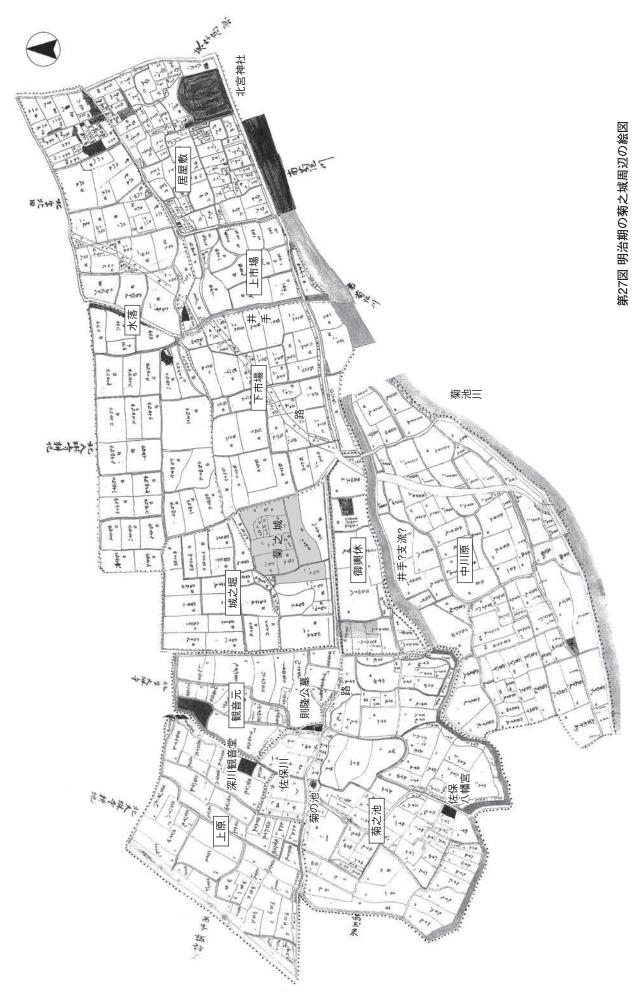
表採・踏査等採取資料

100	一路金	. 寸1本の	具竹																								
掲載	遺跡名	調査区	層序	器	繙	法量※		は復元	焼成		色	調						胎土						調整	残存	ak:	備考
No.	退聊石	阿里匹	MITP	fuir	1里	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	196192	内	面	9	- 面	角閃石	石英	長石	全雲母	白色粒	赤色粒	黑色粒	砂礫 (mm)	その他	内側	外面	73(1)	-1-1-1	加与
188	隈府城下 遺跡	トレンチ	①層	土師器	碗か?	残存 1.35		(7.2)	良好	にぶい 黄	2.5Y6/3	浅黄	2.5Y7/3		0			0	0		2		ナデ	ナデ、回転ナデ	高台	14%	
189	隈府城下 遺跡	トレンチ	客土	土師器	坏 (小皿)	残存 1.2		(5.7)	良好	橙	7.5Y7/6	橙	7.5Y7/6	0	0	0	0	0	0		1		回転ナデ	ナデ、回転糸切り	底部	16%	底部圧痕(板状圧痕?)
190	隈府城下 遺跡	トレンチ	客土	土師器	坏 (小皿)	残存 1.65		(5.6)	良好	にぶい 黄	7.5Y7/4	にぶい 黄	7.5YR7/4		0	0	0	0	0				回転ナデ	回転ナデ・ 回転糸切り・指頭痕	底部	25%	底部圧痕(板状圧痕?)
191	隈府城下 遺跡	トレンチ	⑤層 (客土)	瓦質土器 (土師質)	描鉢	残存 6.25		(12.7)	良好	灰黄	2.5Y7/2	浅黄橙	10YR8/3	0	0	0	0	0	0		1~3		回転ナデ	ナデ、ハケ目、 指頭痕	底部	20%	4条一単位の揺目、揺目は放射状 に施した後、交差するように施す
192	隈府城下 遺跡	トレンチ 1	包含層· 遺構	土師器	坏	残存 1.7		(7.8)	良好	にぶい 橙	7.5YR7/4	にぶい 橙	7.5YR7/4		0		0	0	0				回転ナデ	回転ナデ、回転糸 切り	底部	25%	
193	隈府城下 遺跡	トレンチ	包含層· 遺構	土師器	坏	残存 2.9			良好	にぶい 橙	7.5YR7/4	橙	7.5YR7/6		0				0				回転ナデ	回転ナデ、ナデ		不明	外面スス付着
194	隈府城下 遺跡	トレンチ 1	包含層・ 遺構	土師器	坏	残存 1.5			良好	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6	0	0	0	0	0	0				回転ナデ	回転ナデ、 回転糸切り	底部	不明	
195	隈府城下 遺跡	トレンチ	旧耕作土~ 黒色土の間	土師器	坏	残存 1.5		(6.6)	良好	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3			0	0	0	0				回転ナデ	回転ナデ、 回転糸切り	底部	50%	
196	隈府城下 遺跡	トレンチ 2	旧耕作土~ 黒色土の間	土師器	坏	残存 3.3			良好	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6		0				0				回転ナデ	回転ナデ、 回転糸切り		不明	内外面スス付着
197	隈府院馬場 遺跡		表採	土師器	坏 (小皿)	1.75	(6.6)	(4.9)	良好	橙	5YR7/6	橙	5YR7/6	0	0				0				回転ナデ、 ナデ	回転ナデ、 回転糸切り		15%	
198	菊之城跡 周辺	1	表採	青磁	碗	残存 1.65	_	_	良好	灰白	2.5Y7/1	オリーブ 黄	5Y6/3										施釉	施釉	口縁部		同安窯系碗 I 類か? 外面櫛目文
199	菊之城跡 周辺	1	表採	青磁	Ш	残存 0.9	-	_	良好	灰白	5Y7/1	灰 オリーブ	7.5Y6/2					0		0			施釉	ケズリ、施釉	底部		同安窯系Ⅲ I-1b類か? 見込み櫛点描文
200	菊之城跡 周辺	2	表採	土師器	小皿	1.35	ı	_	良好	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6		0		0	0	0	0			ナデ	ナデ、回転糸切り、 指頭痕		10%	
201	菊之城跡 周辺	2	表採	土師器	小皿	1.15	_	_	良	橙	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	0	0		0	0	0				ナデ	ナデ、回転糸切り		15%	
202	菊之城跡 周辺	2	表採	須恵質 土器	描鉢	残存 2.6	-	(11.3)	良好	灰黄褐	2.5Y5/1	灰	N4					0					ナデ	ナデ、指頭痕	口縁部		7条一単位の擂目、 擂目が消えるほど使用
203	菊之城跡 周辺	2	表採	須恵質土器 か陶器	描鉢	残存 4.1	_	_	良好	黄灰	10YR4/2	にぶい褐 〜灰黄褐	7.5YR5/4~ 10YR5/2					0			1	橙色 粒	回転ナデ	回転ナデ、 自然釉?	口縁部		
204	菊之城跡 周辺	2	表採	青磁?	碗	残存 1.9	_	_	良好	灰白	2.5Y8/1	灰白	10Y7/1							0			施釉	施釉	口縁部		内外面貫入あり
205	菊之城跡 周辺	2	表採	青磁	碗	残存 1.6	-	_	良好	灰白	_	灰 オリーブ	7.5Y6/2					0					施釉	施釉	口縁部		龍泉窯系、 外面片彫蓮弁文
206	菊之城跡 周辺	2	表採	青磁	碗	残存 1.4	ı	_	良好	灰白	5Y7/1	オリープ 灰	5GY6/1										施釉	施釉	口縁部		龍泉窯系、 外面片彫蓮弁文
207	菊之城跡 周辺	2	表採	青磁	碗	残存 1.3	_	_	良好	灰白	5Y7/1	オリープ 灰	10Y6/2							0			施釉	ケズリ、施釉	高台		見込み釉剥ぎ
208	菊之城跡 周辺	2	表採	青磁	Ш	残存 1.45	-	_	良好	灰白	5Y7/1	灰 オリーブ	5Y6/2							0			施釉	施釉	口縁部		
209	菊之城跡 周辺	2	表採	青磁	Ш	残存 1.25	_	(3.9)	良好	灰白	2.5Y7/1	オリーブ 灰	10Y5/2										施釉	施釉	底部		上げ底状底部、 龍泉窯系皿 I 類?
210	菊之城跡 周辺	3	表採	青磁	碗	残存 1.6	-	_	良好	灰白	7.5Y8/1	明緑灰	7.5GY7/1										施釉	施釉	口縁部		龍泉窯系、 外面片彫蓮弁文
211	菊之城跡 周辺	3	表採	青磁	碗	残存 3.1	_	5.6	良好	灰白	5Y7/1	浅黄~オ リーブ黄	5Y7/3~ 5Y6/3							0			ナデ、 施釉	ケズリ、ナデ、 施釉	底部	70%	内外面貫入あり
212	菊之城跡 周辺		表採	青磁	?				良好	灰	N8	オリープ 灰	10Y6/2							0			施釉	施釉		不明	片彫で文様

第1表 出土遺物観察表



-30 -



は、北西⇔南東方向の区画溝ではないかと考えられる。トレンチ3ではピットを多数検出したが、掘建柱建物等の存在は確認できなかった。確認調査時は城としての確証を得るための調査であったため、柱穴ととらえ何基かサンプルで掘り下げを試みたが、検出した限りでは建物の痕跡は確認できなかった。ピット群から、主郭部分と考えられる筆について建物が存在したことが推測される。土坑については性格は不明である。トレンチ4で検出した2号溝は、主郭部分の北西側の堀と推測される箇所よりさらに外側で北東⇔南西に延び、主郭部分よりも高いレベルにある。遺構埋土中に15世紀代の遺物も認められることから、菊之城に関連した遺構でない可能性も高い。史跡調査検討委員会小畑委員からは、この遺構が菊池一族時代のものであれば、これまで城の範囲とされていた箇所だけでなく、その後背にあたる北西側の一段高い箇所一帯にも関連施設が存在したのではないかとの示唆を受けた。別の開発事業に伴い実施した菊之城跡北西側一帯の確認調査では、掘建柱建物と推測されるピット、住居址の可能性がある硬化面を検出し、須恵器、土師器、青磁等が出土している。さらに周辺では輸入陶磁器等を表採することができ、菊池川では舟着場の存在も伝承されていることから、菊之城が独立して所在していたわけではなく、居館を中心とした施設が集約されていたことも考えられる。

トレンチ1~3 は、地表面から0.7~0.9m下の客土直下の層とアカホヤ二次堆積層の間に、古代から中世にかけての遺物包含層が確認された。トレンチ1 は黒褐色土層(II層)、トレンチ2 は暗褐色土層(II層)と暗褐色土層(IV層)、褐灰色土層(IV層)が遺物包含層にあたる。遺物は主にトレンチ1、3、トレンチ1の遺物集中部から出土した。土師器坏、小皿が多く出土し、いずれも小片であるが白磁碗、龍泉窯系青磁碗、同安窯系青磁碗、陶質系擂鉢、瓦器碗、須恵器等も認められた。土師器の特徴、法量から土師器坏、小皿は肥後の中世土師器研編年の第9期(13世紀前半~中葉)から第10期(13世紀後半)の範疇にあると考えられる。土師器坏、小皿の底部切り離し技法は糸切りのみでありへラ切りは認められず、前代に比べて法量の小型化が始まる時期である。菊之城は初代則隆から十五代武光まで250年以上本城であったと伝えられており、調査前は11世後半~14世紀中ごろまでの遺物が満遍なく出土するのではないかと想定していたが、出土遺物は13世紀前半~後半が主体を占めた。

また菊之城跡のトレンチ $1 \sim 3$ から出土した炭化物は、13世紀前半 ~ 15 世紀中ごろの数値を示しており、伝承による菊之城が存続した期間と整合することが判明した。

第4節 菊之城跡周辺の踏査等の成果

菊之城跡は菊池川を南に見下ろす河岸段丘上に位置する。約300m南東が菊池川である。伝承等では、初代則隆が菊之城に居館を設けた延久2(1070)年が、菊池一族のおこりとされている。当該地は菊之城に比定されており、菊池古城、深川城等の別称も伝えられる。現代も主郭部分ではないかと思われる筆と、その北、東、南の筆が一段低く、堀跡ではないかと考えられている。江戸時代に編纂された『菊池風土記』等の文献資料には、菊之城跡やその周辺の初代則隆公墓、菊の池も記述されており、近世の菊池一族の城と周辺の景観についての通説を知ることができる。菊之城がこの場所に建造された理由として、菊池川を利用した水運の拠点との説が主流である。菊之城の対岸の赤星地区に江戸時代に舟着場があったことが記述されており、さらに菊之城側の深川にも舟着場が存在した可能性は大きい。県内で中世居館と舟着場がセット関係にあるのは相良頼景館があげられる。菊池市教育委員会では、平成29年度から複数回にわたって踏査を実施し、遺物の表採、周辺地形の把握をおこなった。

菊之城の南は菊池川に向かって徐々に傾斜しているが、急激に段差が見受けられる箇所や、周辺よりも一 段高い高台状の箇所もある。中世は河川の流れが現代とは異なっていた可能性もあるが、江戸時代に著され た『菊池川全図』や明治時代の絵図に描かれた流路は現在とほぼ同じであり、少なくとも江戸時代後期から 河川の流れは変わっていないことがわかる。

菊之城跡の所在地の小字名は城之堀であり、城を連想させるものである。またその東側には上市場、下市場の小字がのこる。水運と関りがあったと推測される菊之城に隣接してこのような小字名がのこることは興味深い。

菊之城跡から約240m南西に、深川に居館を構えた初代則隆の墓が所在する。墓自体は文化年間に造られたものである。隣接して菊の池跡がある。池が菊の花の形をしていたからとも、周辺に菊の花が咲き乱れていたからともいわれ、ここから菊池の地名がおこったとの通説がある。菊は原産地の中国から、奈良時代に日本に入ってきたと考えられ、11世紀当時の菊は野菊であったようである。近隣の佐保川八幡宮の周辺の竹やぶに、かつて五輪塔があったとの伝承がある。また隣接した水田からも五輪塔が見つかっている。

深川周囲の河岸は後世の河川改修により、かつての景観を知ることはできないが、対岸の赤星地区では造成の際に残存していた直方体の加工岩を、撤去せずにそのままのこしている。地区の人の話では、原位置からは移動しているようではあるが、舟着場の名残であったと伝えられている。ちょうど菊之城跡の対岸で舟着場があったのではないかと推測される場所である。赤星地区の集落内には、集落から河川に向かって延びる道がのこっている。これらは"くんば"と呼ばれていたようであり、一番から六番まである。延びる先は、赤星の舟着場伝承地である。このくんばという呼称も当時のものを反映しているのかどうかは不明であるため、言及するだけにしておきたい。また四番くんばの集落入り口付近には、赤星有隆屋敷跡の伝承がある。赤星有隆は菊池一族内の有力庶家であった。

赤星地区から約600m上流には、十七代武朝が勧請したと伝えられる阿蘇北宮神社が所在している。この神社は鳥居と参道が菊池川に面しているのが特徴である。『菊池風土記』によれば、ここにも舟着場があったとのことである。現在でも伝承があったことを記憶している人がいる。この周辺より上流は急激に浅く急流となり、舟で遡上できるのもこのあたりが限度であろうと思われる。ちなみに赤星の舟着場は、かつては北宮の渕尻付近にあり、後に移ったとも記述されている。

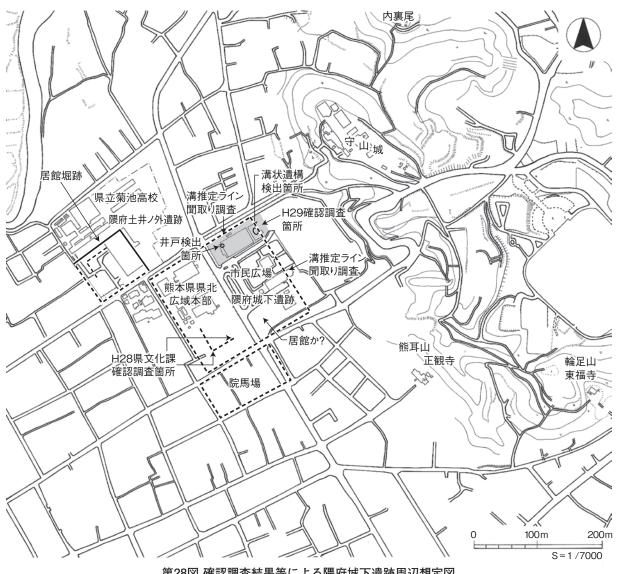
菊之城跡から菊池川にかけての一帯で、土師器、輸入陶磁器が多数表採されている。いずれも小片であったが、一部、蓮弁華紋の龍泉窯磁器が見受けられた。

第5節 守山城跡及び隈府の町並み

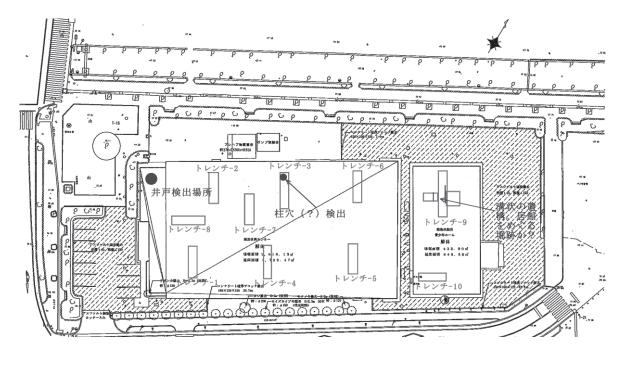
限府の中心に位置する県立菊池高校建て替えの際に発掘調査が実施された限府土井ノ外遺跡では、14世紀後半~15世紀前半代の遺物が出土し、多数の建物跡を伴う90~100m四方の堀をめぐらせた居館跡が確認された。堀の方向が現在の限府の町並みと整合するものであり、およそ650年前から守山城直下の限府の町並みは、計画的に整備されていた可能性を示すものであった。ただし、当初想定されていた菊池氏の居館跡か否かの証明は、その時点では困難であった。

平成29年度に、守山城直下の市民広場の再整備に伴って、昭和40年代に建てられた体育館等撤去後、隈 府城下遺跡のトレンチ調査を実施した。地表面から1.8~2.4mまで後世の客土であったが、その下からピッ ト、溝状遺構等を検出した。

溝状遺構は、隈府土井ノ外遺跡で確認された居館の堀から推測される、当時の町中の区割りと直交するものではないかと考えられる。市民広場周辺は、戦後まで現在の菊池神社参道に沿って溝があり、それが直角に折れて南東へ延びていたとの複数の証言がある。この溝状遺構はその箇所にあたる可能性がある。また平成28年度、県教育委員会が実施した市民広場前の県北広域本部の確認調査でも、溝状遺構が検出されており、糸切り底部の土師器皿が出土している。さらに敷地内南西側では、隈府の町並みに沿った段差、隣接するグラウンド内には土塁状の高まりがあり、周辺でも土師器小片を表採することができる。これらの成果を



第28図 確認調査結果等による隈府城下遺跡周辺想定図

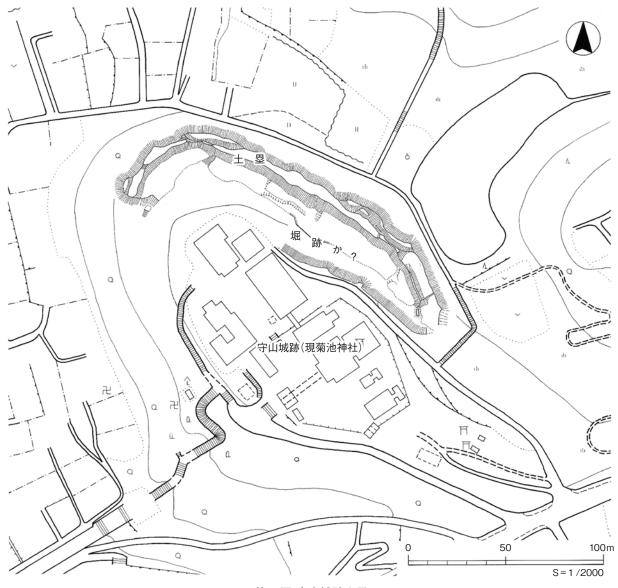


第29図 隈府城下遺跡(市立体育館・青少年ホーム跡地)確認調査結果

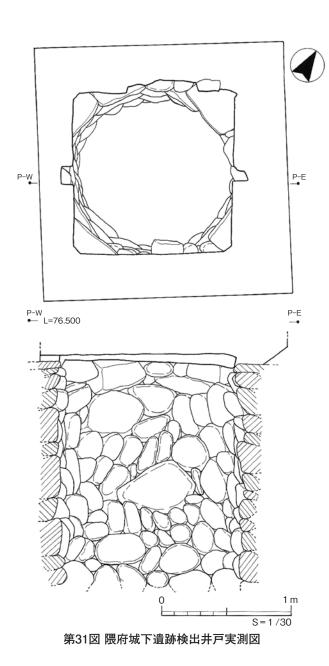
併せて推測すれば、確認された溝状遺構を同一の居館の堀ととらえた場合、市民広場周辺に約200m四方のきわめて規模の大きな方形居館の存在がうかがえる。隈府の町並みは現在では商店街化し、道路も舗装されているが、昭和初期までは各所に土塁状の高まりや、竹やぶがあったとの証言もある。

井戸跡は体育館解体後に見つかった。人頭大の河原石を円形に組み合わせ、直径1.8m、深さは約10mを測る。底部付近には石組みはなく、オーバーハング状にえぐられているが、これは中世の井戸の底に桶を据えた事例があるとのことから、その桶が腐食してこのようになったのではないだろうか。隈府土井ノ外遺跡でも、規模はやや小さいが河原石で石組みをした類似した井戸が見つかっている。これらのことからこの井戸は中世のものであった可能性がある。他の調査事例等を参考にして、さらに検証する必要があるだろう。市民広場周辺は、明治時代以降、県立蚕養学校の官舎があったとのことであり、井戸にはポンプがのこされたままであった。再利用したものかもしれない。ちなみに平成30年度の民間開発に伴う近隣の隈府町中の確認調査で、河原石の石組みの井戸が見つかっている。検出面は現在の道路から約2.0m下のレベルであり、町並みは大規模な造成がおこなわれたことが推測できる。

さらに隣接して院馬場の字名が現在ものこる。院馬場は「犬追う物」からきた地名と推測され、居館や城の周辺、大手口、都市の中枢部に置かれた事例が多いことがら、居館のそばに馬場が設けられていた可能性が示される。『肥後國誌』には「今の正觀寺村にゐんの馬場と云處あるを澁江公正か菊池風土記に其處を城



第30図 守山城跡土塁



断できない。中世の城に関する今後の調査を待ちたい。

院の跡ならんといへるはまたしき考にて是は 菊池家の犬追物を興行せし馬場の跡にて(中 略)今は訛りて其跡をいん場の町と云類にて 餘所の古城跡にも今に犬の馬場といふ名の殘 りたるか所々に有之事」との記述がある。

第6節 菊之城跡・守山城跡の空中レーザー測量等

平成29年9月27日、菊之城跡と守山城跡周辺の空中レーザー量を実施した。守山城周辺は神社の敷地であるため樹木が繁り、目視では城郭の遺構の全容を把握することが困難であったため、実施したものである。

これにより、守山城には現在菊池神社の建造物がある山頂部の北側を、J字状にめぐる土塁状の遺構がみとめられた。土塁により、主郭と推測される箇所との間に、巨大な空堀状の空間が形成される。高さは最大で約3m、基部は外側が険しい斜面となっているため計測することはできないが、内側の立ち上がり部から土塁の頭頂部まで最大で約10mを測る。土塁上の平坦部の幅は最大で約7mを測り、人が歩行することができるほどの大規模なものであることがわかった。ただし土塁の外側は険しい斜面となっており、これが中世の城に伴う防御設備であるかどうかは、判

第7節 菊之城跡確認調査出土炭化物測定

平成23年度の菊之城跡の確認調査で出土した炭化物 4 点の樹種同定と、放射性炭素年代測定をおこなった。測定をおこなった試料は試料No.1 (トレンチ1、中央部包含層上部出土炭化物)、試料No.2 (トレンチ2、中央部南壁直下包含層序上面(遺構検出面)出土炭化物)、試料No.3 (トレンチ2、1号土坑出土炭化物)、試料No.4 (トレンチ3、中央部V-1層出土炭化物)とする。

樹種同定試料は木材解剖学的手法を用いておこなった。同定の結果、菊之城跡出土の炭化材は、試料 $N_0.1$ はサカキ(Cleyera japonica Thunb)、試料 $N_0.2$ はスギーヒノキ科(Cryptomeria japonica D.Don-Cupressaceae)、試料 $N_0.3$ はシイ属(Castanopsis)、試料 $N_0.4$ (Quercus sect. Aegilops)はコナラ属クヌギ節であった。いずれの樹種も温帯下部暖温帯域に分布する樹種である。スギーヒノキ科は針葉樹、シイ属とサカキは照葉樹、コナラ属クヌギ節は落葉広葉樹である。どのような木材が炭化したかは不明であるが、スギーヒノキ科は木理通直な良材で、シイ属、サカキ、コナラ属クヌギ節は比較的強靱な材であり、いずれも大材がとれ建築材にも使用される。シイ属やコナラ属クヌギ節は二次林種でもある。菊之城跡の炭化材

試料名	測定No.	未補正14C年代1)	δ13C2)	補正14C年代3)	暦年代(西暦)4)
	(Beta-)	(年BP)	(‰)	(年BP)	
No. 1	343374	800 ± 30	-26.1	780 ± 30	交点:calAD 1260
					1σ : calAD $1220 \sim 1270$
					2σ : calAD 1220 \sim 1280
No. 2	343375	690 ± 30	-24.3	700 ± 30	交点:calAD 1280
					1σ : calAD 1280 \sim 1290
					2σ : calAD 1270 ~ 1300,
					: calAD 1370 ∼ 1380
No. 3	343376	620 ± 30	-25.5	610 ± 30	交点:calAD 1320,AD 1350,AD 1390
					1σ : calAD 1300 \sim 1330,
					: calAD 1340 ∼ 1370,
					: calAD 1380 ∼ 1400
					2σ : calAD 1290 \sim 1410
No. 4	343377	520 ± 30	-25.3	520 ± 30	交点:calAD 1420
					1σ : calAD 1410 \sim 1430
					2σ : calAD 1330 ~ 1340,
					: calAD 1400 ∼ 1440

BP: Before Physics (Present), AD: 紀元

第2表 菊之城跡確認調査出土炭化物年代測定結果

は、当時遺跡周辺に生育していたものか、地域的な流通によってもたらされたと推定される。

出土した炭化物について、加速器質量分析法(AMS法)により放射性炭素年代測定をおこなった。その結果、試料No.1 は780±30年BP(2σ の暦年代でAD 1220~1280年)、試料No.2 は700±30年BP(同AD 1270~1300年、AD 1370~1380年)、試料No.3 は610±30年BP(同AD 1290~1410年)、試料No.4 は520±30年BP(同AD1330~1340年、AD 1400~1440年)の年代値が得られた。出土した土器は13世紀前半~13世紀後半が主体を占めており、試料No.1、2 はこの年代に近いが、試料No.3、4 は新しい数値である。

第8節 文献調査の成果

菊池の城については、いくつかの中世文書に見出すことができる。現存する中世文書は多くないが、当時の城名や菊池における南北朝期の動乱の情勢をうかがうことができる。本節では、本城に関連すると思われる史料をあげて検討をしてみたい。

|史料1| 年月日不詳「小代光信軍忠状」(『熊本県史料』中世編第五「詫磨文書245」

建武三年正月八日属大宰府討手堀三郎入道殿、押寄菊池山城太手令追落武敏以下兇徒等畢

|史料2| 建武五年四月十八日付「詫磨貞政軍忠事」(『南北朝遺文』九州編第一巻、1168 号「豊後詫摩文書」)

一、建武三年正月八日、菊池山城之合戦之時、致軍忠迫落候畢

|史料3| 暦応三年三月付「詫磨宗直軍忠状案」(『熊本県史料』中世篇第五「詫摩文書」86号)

一、同年(建武四年)八月、**菊池渡山**合戦之時、舎弟彌七郎·同親類次郎五郎等、致軍忠訖

史料1、2は、建武3(1336)年の正月8日に菊池山城が攻められ、菊池武敏が城を追われたことが記されている。武敏は十三代武重の弟にあたり、この時期、惣領武重にかわって菊池の留守をあずかっていた人物である。武敏は直後の建武3年3月に九州の宮方勢力を率いて、博多の多々良浜で九州落ちをした足利尊氏と合戦している。この記述はその直前のことであるが、武家方に菊池まで攻め込まれていることがわかり、当時の緊迫した情勢をうかがうことができる。史料3は、翌年8月にも菊池渡山で合戦があったことが記録されている。隈府の東隣に亘の地名があり、位置関係から現在の守山城ではないかと推測することができる。『肥後國誌』にも「渡ハ輪足村ナリ正觀寺村一續ノ村ニテ即城山ノ下也正觀寺建立ナキ前ハーニシテ輪足村ト云寺立テノ後分ツテ正觀寺村ト名付シナルヘシ 然レハ此渡山城モ此城ノコトナリ」との記述が

あり、菊池武光の菩提寺正観寺が建立する前は、輪足村は城山の下まで同一であり、渡山にも山城が築かれていたことがうかがえる。菊池山城と渡山の山城が同一のものである可能性がある。

史料4 正平五年三月廿日付「恵良惟澄軍忠状」(『南北朝遺文』九州編第三巻、2717 号「肥後阿蘇家文書」) (正平三年十二月)同十二日酉剋押寄凶徒合志能登守幸隆、所楯籠之**菊池陣城**、始合戦、六ケ日夜致軍功畢

史料5 年月欠「惠良惟澄申状追書写」(『南北朝遺文』九州編第三巻、2655号「肥後阿蘇家文書」) 惟澄此間合戦之次第、同注進候、此外肥後国<u>菊池本城</u>、当時合志入替武士令楯籠、去十五日武光令発向、 追落外城燒払、打取凶徒廿余人了、同十六日追落**隈部城**

史料6 正平四年十一月一日付「征西将軍宮令旨写」(『南北朝遺文』九州編第三巻、2654号「肥後阿蘇家文書」)

為対治<u>菊池本陣</u>、凶徒馳参之処、合志原合戦被致忠并破却外城之時、軍忠之次第、殊所被感思食也、且可 伝仰舎弟豊前権守惟雄也者、征西大将軍宮御気色如此、仍執達如件

史料4、5は、菊池陣城(菊池本城)が武家方である合志幸隆に占領され、これを武光が奪還した際の軍忠状である。また史料6は、菊池本陣に敵が攻め寄せてきたことを記述している。通説では本城が守山城へ移ったのは武光以降のことであり、これを信じるならばこの城は菊之城であるとみてよいだろうが、同時に菊池陣城とも記されていることにも注目したい。陣は一般には臨時的な仮設の施設として理解されていることが多いが、設けられた期間や立地などにより、実態はさまざまであることが推測される。城と陣の違いについては、明らかに使い分けがされている場合もあれば不明確の場合もあり、使い分けがたい面も持っているようである。この合戦では同一の城が城と陣と別個に表現されているが、記したのがともに宮方であることから、意図的に使い分けたとは考えにくく、明瞭に区別されていなかったのではないかと思われる。ちなみにこの陣城という表現は、南北朝期それほど一般的ではないとのことである。また史料5で、本城とは別に隈府城が記述されている。守山城に比定することができるのではないだろうか。

|史料7| 康暦元年七月十七日付「今川了俊書状写」(『新熊本市史』史料編第二巻「阿蘇家文書(写)」42号)

- 一、菊池の事も南郡の事も、早々⁻道行候ぬと存候、その上菊池事ハ、<u>陳の城</u>、<u>くま目の城</u>、木野城な と、更々兵粮なき時分にて候間、此城々の通路⁻つめより候ハ、、可落候条、案のうちの事⁻て候
- **史料8** 永徳元年七月 日付「福田兼親軍忠状写」(『南北朝遺文』九州編第五巻、5672 号「福田文書」) (永徳元年)又同十六日、同国窪田御発向御共仕畢、次<u>菊池陣城</u>致警固之処、同六月十八日、被召<u>隈部</u>・ 松山攻陣之間、致宿直、日々野伏合戦仕之刻、同廿二日、菊池武興已下凶徒等令没落畢
- **史料9** 永徳元年七月 日付「深堀時久軍忠状」(『熊本県史料』中世篇第五「深堀文書」17号) (永徳元年)同五月十二日、<u>菊池陣城</u>令御共畢、同六月十八日、自板井御陣、<u>熊部</u>松尾御陣令御共、同廿 二日、熊部城没落畢
- **史料10** 永徳元年九月 日付「深堀時弘軍忠状」(『新熊本市史』史料編第二巻「深堀文書」4号) (永徳元年)去五月十日、馳参肥後国板井原御陣之処、同十二日、被□<u>菊池館城</u>之間、於当城仁致宿直之処、同六月十八日、被召<u>隈□(部カ)城</u>攻陣之間、日夜致合戦之刻、同廿二日夜^並、武興已下凶徒□□ (等令カ)没落訖

史料11 至徳元年九月日付「安富了心實軍忠状」(『新熊本市史』史料編第二巻「深江文書」2号)
一、肥後国志々木原・板井・一駄原・丸山・前原以下於在々所々御陣、致忠節、□□□□□徳元年□月廿
日馳参、同廿六日木野菊池之御勢仕之時、令御共畢、同六月廿二日、菊池次郎武朝要害 <u>熊耳城</u> 没落□□
(之後カ)、同廿六日、為□□□□徒等御対治御発向之間、於蛭隈之御陣、両三ヶ年越年仕、致宿直警固
□ (畢カ)

弘和三年七月 日「菊池武朝申状写」(『熊本県史料』中世篇第四「志岐文書」16号)

**	〈徳・弘和年間)	久、建武年間~永	[] (延	長 文献史料に記述された「菊之城」「守山城」(延久、建武年間~永徳・弘和年間)	第3表		
武朝·親善等之一族、忽企反逆、楯籠守山城	葉室親善申状写(資料13)	一字山城				_	
一族以下扶持人等受二彼朋党之語一、楯二						 中	(1382):

記事年号				英			ф П	山 姨
事内の年号を表示)	本域としての 推定存続期間	史料中城名	中 巻 名	岩 品	本域としての 推定存続期間	史料中城名	中本名	授
延久2 (1070)年 7月15日	菊之ば	海の城	[狮池風土記](☆)	左近将監據原則離公肥後を賜り延久二年七月十五日此地 に下向有で同郡窓川村に城を築き是を第の城と称す十五 代武光公建成一百城今深川境北宮村の田の中に壱丁余 の島に高く四万郷りにで石垣乗き廻したる所有今に天守 勝といふ延久二年より寛政六年迄七百拾四年に成				
延久2年	X.	業池古城(雲上の城・菊の城) 菊 ノ 城跡	[古城考](公) [肥後國志](公)	深川村の北にあり、雲上 の城 と云 深川村ノ北ニアリ				
	-{}-							
建武3 (1336)年 正月8日					(十三:	菊池山城	小代光信軍忠状(資料1) 詫磨貞政軍忠状(資料2)	建成三年正月八日属于宰府討手堀三郎入道殿、排寄菊池山城 大手令追落武船以下凶徒等畢 建成三年正月八日、菊池山城之合號之時、致軍忠迫落後畢
建武4 (1337)年 8月						菊池渡山	託磨宗直軍忠状(資料3)	同年八月、 菊池渡山 台戦之時、舎弟彌七郎・同親類次郎五郎 等、致軍忠訖
	55				₹			
正平3 (1348)年 12月12日		菊池陣城	恵良惟澄軍忠状(資料4)	推接率目向国高和尾庄軍勢等, 夫十日聽越續池, 同十二日 酉週押客囚徒合志能登守幸隆, 所稽籠之 菊池陣域 , 始合戰, 六ケ日夜致軍功畢				
正平3年		菊池本城	惠良惟澄申状追書写 (資料5)	推澄此間合殿之次第,同注畫像,此外肥後国 鄉池本城 ,当時 合志入替武士令楯籠,去十五日、武光令発向,追落外城燒 払,打取凶徒甘余人了				
正平3年 12月16日						隈部城	惠良惟澄申状追書写 (資料5)	同十六日、追落 隈部城
正平4 (1349)年 11月1日		菊池本城	征西将軍宮令旨写(資料6)	為対治菊池本庫、凶徒聽参之処、合志原合戰被致忠并破却 外域之時、軍忠之次第、殊所被應思食也				
	-\\				->>			
正平 22 (1367)年						上城 F山城·隈库	也風土記』(ヶ	高野瀬村正観寺村両所の交に有又守山城ともいふ今 腰府の城 路といるは是也築池十六代武政公南朝の正平二十二年に
				このころ、本城	機能	は守山城へ	移転か?	是を築く
(※通説につき年 号不詳)						展府古城(守山の城・隈府の城) (長) (守) (守) (守)	[古城考](☆) [肥後國志](☆)	無双の要害也、 守山の城 共云、世に 隈府の城 と唱れ共 當城ハ山城也守山ト云
康曆元(1379)年 7月17日		陳の城	今川了俊書状(資料7)	その上菊池事ン、簾の城、〈ま目の城、木野城なと、更々兵 粮なき時分にて候間、比城々の通路ニつめより候ハ、、可 落候糸、案のうちの事ニて候		くま目の城	今川了俊書状(資料7)	その上衛池事ハ、陳の城、 〈ま目の城 、木野城なと、更々兵粮なき時分にて後間、比城々の通路ニつめより候ハ、、可落候条、梁のうちの事ニて依
永徳元(1381)年 5月12日		菊池陣城 菊池陣城 菊池舘城	福田兼親軍忠状(資料8) 深堀時久軍忠状(資料9) 深堀時弘軍忠状(資料10)	次衛池陣城投警震之所 同五月十二日、菊池陣城令御共單 同十二日、被囚菊池館城之間, 於当城仁致信直之処				
永徳元年						熊部城	深堀時久軍忠状(資料9)	同六月十八日、自板井御陣、熊部松尾御陣令御共、同廿二日、 熊部城 没落畢
6 JH 18·22 H							深堀時弘軍忠状(資料10) 安富了心軍忠状(資料11)	同六月十八日、被召 陽□城 攻陣之間、日夜致合戦之刻 同六月廿二日、菊池次郎武朝要害熊 耳城 没落□□
弘和 2 (1382)年						守山之要害	菊池武朝申状写(資料12)	弘和二年之比者、武朝守二 報旨一、奉レ仕二将軍宮之間一、 一族以下扶持人等受二伐朋党之語一、楯二籠分領守 山之要害
						守山城	葉室親善申状写(資料13)	武朝·親善等之一族、忽企反逆、楯籠守山城
			:					

史料和二年之比者、武朝守₋叡旨₋、奉_\仕₋将軍宮之間一、一族以下扶持人等受₋彼朋党之語₋、楯二籠分<u>領</u> 守山之要害

| **史料13**| 弘和四年七月四日「葉室親善申状写」(『南北朝遺文』九州編第五巻、5825号「菊池古文書」) 武朝・親善等之一族、忽企反逆、楯籠守山城

史料7以下は、武光時代から30年ほど下った孫の武朝時代のものである。隆盛を誇っていた菊池も、退潮に歯止めをかけることはできず、武家方の今川了俊により追い詰められていた。事実、この10年ほどのちに南北朝は合一する。その時代背景を反映してか、**史料8~11**は攻め手側の軍忠状である。

史料7では今川了俊が菊池の城として陳の城とくま目の城をあげ、これらの城には兵糧がすでになく、城 の道から攻めれば落城するだろうと記されている。 史料8では福田兼親が菊池陣城の警固をしたこと、その 後隈部・松山の陣を攻めた際に宿直をしたことが記されている。**史料9**では深堀時久が菊池陣城、隈部松尾 の陣へ供をし、熊部城が攻め落とされたことが記されている。史料10では深堀時弘が菊池館城で宿直し、 隈□城を攻めたことが記されている。**史料11**では、武朝の籠もる熊耳城が攻め落とされたことが記されてい る。史料8~11はすべて、永徳元年6月22日に武家方が菊池武朝(興)の立て籠もる熊部城(隈□城・熊耳 城)を攻め落とした同一の軍事行動の記述である。軍忠状の書き手によって城名は異なり、武家方は統一し た名称を使っていないことがわかる。史料12の『菊池武朝申状写』は、吉野の朝廷に対して菊池の惣領武朝 が、出自や代々の功績を奏上した貴重な史料である。一族や家臣が守山之要害に立て篭もったことが記され ている。史料13も反逆を企てた者が守山城に立て篭もったことが記録されている。弘和年間に守山城(守 山之要害)という城名が登場していることに注目したい。守山城の直下は現代では隈府の地名があり、菊池 武光の菩提寺正観寺の山号が熊耳山であること等からも、熊部城(隈□城・熊耳城)は本城機能を持ち、14 世紀にはすでに宮方からは、現在伝わる守山城の城名で呼ばれていたことがうかがえる。史料8~10では、 菊池陣城(菊池館城・陳の城)の城名が記されており、**史料4**等の記述から菊之城と推察できるが、すでに 武家方の勢力圏に入っており、もはや菊池の本拠としての重要性はなくなっているようだ。**史料7**に記され た陳の城、くま目の城も、それぞれ菊之城と守山城に比定されるかもしれない。またこの時期、他の文書に 城や陣の記述があり、菊池周辺で軍事活動が活発であったことがうかがえる。

第Ⅳ章 総括

菊之城跡の確認調査では、城と伝承されている箇所にトレンチを設置し、溝状遺構、ピット等を検出することができた。また13世紀前半から後半にかけての大量の土師器、13世紀前半~15世紀中ごろの数値を示す炭化物も出土しており、城、もしくは居館の存在をうかがうことができた。さらにその後背にあたる北西側一帯にも、関連施設が存在した可能性がある。周辺では輸入陶磁器等を表採することができ、菊池川では舟着場の存在も伝承されていることから、菊之城が独立して所在していたわけではなく、居館を中心とした施設が集約されていたことも考えられる。この調査では、規模や構造等の全体像を把握するまでにはいたってはいない。また出土遺物の時期が一時期に集中する等、疑問点は多く、城と居館の理解も含めて今後も検証をすすめていく必要があると考えられる。

守山城跡については、現在菊池神社の敷地である。伝承や文献史料では、十六代武政の代に、現在は菊池神社が所在している守山城へ本城機能を移したとされている。一部に土塁が確認されているが、これが中世のものかどうかは不明である。一方隈府市街地では、守山城直下の隈府城下遺跡の確認調査で溝状遺構、井戸等を確認した。200m四方におよぶ規模の大きい館の存在がうかがえる。100m超級の規模の方形居館は西

日本では大内氏の守護館等、事例が限られている。菊池一族の経済規模や格式等、発掘調査以外の視点も交 えつつ、慎重に考察をすすめていきたい。

また隣接する隈府土井ノ外遺跡の過去の発掘調査では90~100m四方の居館の存在が確認されており、堀の向きが現在の街並みと合致すること、隈府城下遺跡の南側には院馬場の地名が現在も残ること等から、中世の隈府一帯は規格された町並みが整備されていた可能性が示された。ただし周辺は市街地であるため、広範囲の調査等は不可能であり、実態を知ることは困難である。確認調査等により、資料の蓄積が必要であろう。

菊之城跡等から出土した遺物を観察すると、菊之城跡では13世紀代を中心とする土師器が主体である。一方、隈府土井ノ外遺跡からは14世紀後半~15世紀前半代の土師器が主体であった。守山城の時代を証明する物証はないが、城と居住エリアである隈府土井ノ外遺跡が不可分なものと想定すると、守山城は隈府の町の展開と併行して存在したと考えてよいのではないか。これを踏まえると、14世紀代十六代武政のころに、本城が菊之城から守山城に移ったとされている伝承と整合していると思われる。また文献からも14世紀中ごろは菊之城に対する武家方の侵攻が、後半代には隈府方面に移っていること、さらに十七代武朝が守山城に籠城していることから、本拠地が移っているのではないかと推測することができる。

文献史料から、14世紀当時の菊之城、守山城の記録は以下のように整理することができる。

- (1)14世紀前半の建武年間には菊池山城(菊池渡山)での合戦の事が記され、守山城に比定される可能性がある。本城と伝えられている菊之城と思われる記述はない。
- (2) 14世紀半ばの正平年間には、菊池陣城(菊池本城・菊池本陣)の記述がある。宮方が本城と記録している。菊之城と考えることができるだろう。武家方に攻められ一時は占拠されており、当時の緊迫した情勢をうかがえる。また隈部城の記述もあり、守山城に比定される可能性がある。
- (3) 14世紀後半代の永徳・弘和年間には、惣領武朝は熊部城(隈□城・熊耳城)に立て籠もって抵抗しており、通説ではこれが菊之城から移ったとされる本城守山城と推測される。この時期、守山城名の記述が初見される。菊之城と思われる菊池陣城(陳の城・菊池館城)の記述はあるが、すでに武家方によって落城しているようであり、本城機能が移転したとの伝承を補強している。

菊之城は「菊池陣城・菊池本城・菊池本陣・菊池館城・陳の城」と呼称されていたと考えられるが、現在の菊之城の名称は、当時から使われていたことはうかがえず、後世につけられたものと推測される。一方、守山城は「熊部城・隈□城・熊耳城・守山之要害・守山城(建武年間の菊池山城(菊池渡山)も守山城である可能性あり)」と呼ばれていたことがわかり、14世紀後半代の弘和2年のころ、すでに守山城の城名が使われていたことがわかる。

以上、平成23年度から実施してきた菊之城跡、守山城跡を中心として中世菊池一族に関連する調査成果 を、概要報告書としてまとめてみた。今回の一連の調査は、発掘調査や現地踏査、文献資料等、客観的な事 実から菊池一族の実像に迫ろうとしたものである。

菊池一族の動向は、中世の肥後国を知るうえで、欠かすことのできない重要な役割を果たしている。しかしこれまでは物証の少なさや、近世以降の伝承が先行しすぎてしまったこと等により、実像が充分にとらえられているとは云いがたい。また中世の城についても、後世の文献に頼っての比定がなされている状況であり、現在までは考古学的成果の検証がほぼ皆無である。伝承を頭ごなしに否定することは慎まねばならぬし、文化財指定段階で城館の場所を特定した先人たちの慧眼には敬意を表するものであるが、いつまでもその成果に安穏としているわけにもいかない。

近年の発掘調査により、物証は少しずつ増えつつあるが、充分な成果を得るには至っていない。これまでは菊之城跡、守山城跡を中心とした城の調査が主体であったが、今後は川港や城の周辺施設等、関連した施設にも眼を向けねばならない。本書の成果をもとに、更なる調査研究を継続していく必要がある。

【参考・引用文献】

《論文等》

青木勝士「肥後菊池氏の守護町「隈府」の成立」『熊本史学』第72・73合併号 熊本史学会 1996 阿蘇品保夫「菊池一族史の再検討」『乱世を駆けた武士たち』熊本歴史叢書 3 熊本日日新聞社 2003 阿南 亨「肥後国菊池における中世城館の再検討」『史学論叢』第44号 別府大学史学研究会 2014 阿南 亨「所謂「菊池十八外城」に関する諸問題」『肥後考古』第19号 肥後考古学会 2014 上田秀夫「14~16世紀の青磁椀の分類」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会 1982 小野正敏「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその時代」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会 1982 齋藤慎一『中世武士の城』吉川弘文館 2006

竹井英文「南北朝〜戦国前期の「陣」について」東北学院大学論集『歴史と文化』第55号 2017 中井 均「中世の居館・寺そして村落―西国を中心として―」『中世の城と考古学』新人物往来社 1991 服部英雄『河原ノ者・非人・秀吉』山川出版社 2012

松岡 進『中世城郭の縄張と空間 土の城が語るもの』吉川弘文館 2015

美濃口雅朗「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究X』日本中世土器研究会 1994 宮武正登「「陣」を再考する一武家社会下の仮設要塞の実態―」『歴博』No114 国立歴史民俗博物館 20 森田 勉「14~16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会 1982 山本信夫「統計上の土器―歴史時代土師器の編年研究によせて―」『九州上代文化論集』 乙益重隆先生古稀記念論集刊行会 1990

《報告書・資料等》

菊池市史編さん委員会編『菊池市史』上巻 1982

熊本県教育委員会編『隈府土井ノ外遺跡』熊本県埋蔵文化財発掘調査報告第248集 2009

熊本県文化財保護協会編『熊本県の中世城跡』熊本県文化財調査報告第30集 1978

渋江公正『菊池風土記』『肥後文献叢書』第五巻1910

新熊本市史編纂委員会編『新熊本市史』史料編第二巻 1993

瀬野 精一郎編『南北朝遺文』九州編第一・三・五巻 東京堂出版

竹内理三・花岡興輝・杉本尚雄・工藤敬一編『熊本県史料』中世編第四・五

大宰府市教育委員会編『大宰府条坊跡 X V 陶磁器分類編』太宰府市の文化財 第49集 2000

森本一瑞纂(水島貫之校補) 『肥後國誌』巻之六 1916

《脚注》

- 註1) 坂口金次郎氏のご示唆による。
- 註2)近江秀俊氏のご示唆による。
- 註3) 服部2012。
- 註4)「陣の方がより一過性の使用を前提としたことを漠然と想像するのみ」宮武2002。
- 註5) 竹井2017。



平成23年度 菊之城跡確認調査 トレンチ1掘削状況(北東→南西)



平成23年度 菊之城跡確認調査 トレンチ2 (北東→南西)



平成23年度 菊之城跡確認調査 トレンチ3 遺構検出状況(南西→北東)



平成27年度 菊之城跡確認調査 トレンチ4 2号溝検出状況 (南→北)



平成23年度 菊之城跡確認調査 トレンチ1 遺物集中箇所



平成23年度 菊之城跡確認調査 トレンチ2 1号溝検出状況



平成23年度 菊之城跡確認調査 トレンチ3 遺構検出状況



平成23年度 菊之城跡確認調査 トレンチ3 遺構検出状況



平成29年度 隈府城下遺跡確認調査 トレンチ9 溝状遺構検出状況



平成29年度 隈府城下遺跡確認調査 トレンチ3 ピット検出状況



平成28年度 隈府城下遺跡 (熊本県県北広域本部敷地内) 確認調査 トレンチ 1 溝状遺構検出状況 (熊本県教育委員会提供)



平成28年度 隈府城下遺跡確認調査(熊本県県北広域本部敷地内) トレンチ2 溝状遺構、ピット検出状況(熊本県教育委員会提供)



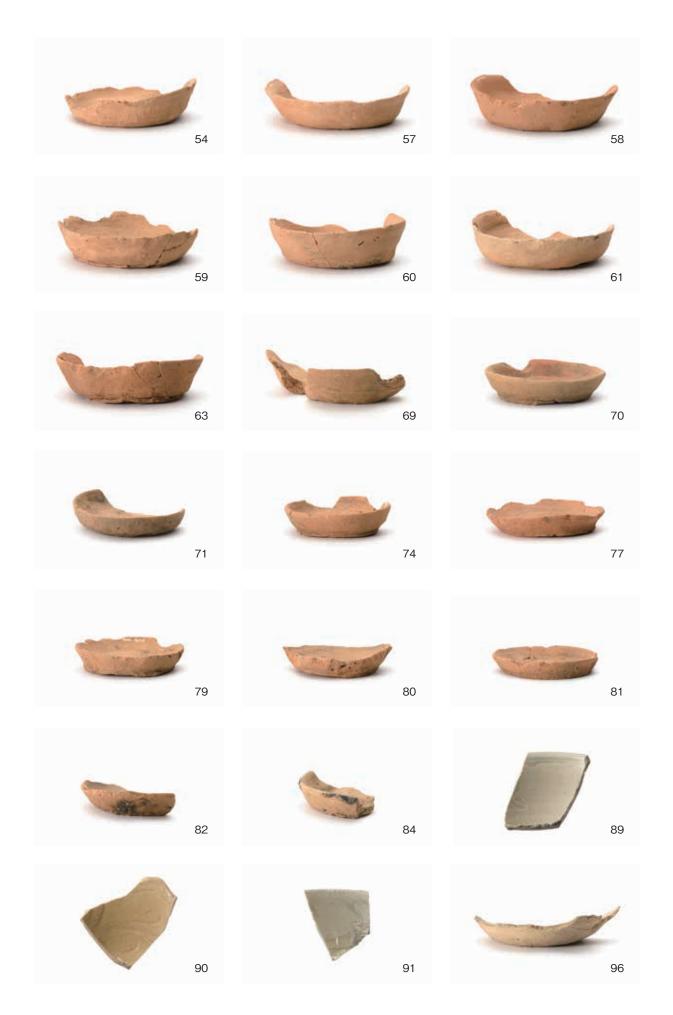
平成29年度 隈府城下遺跡確認調査 井戸

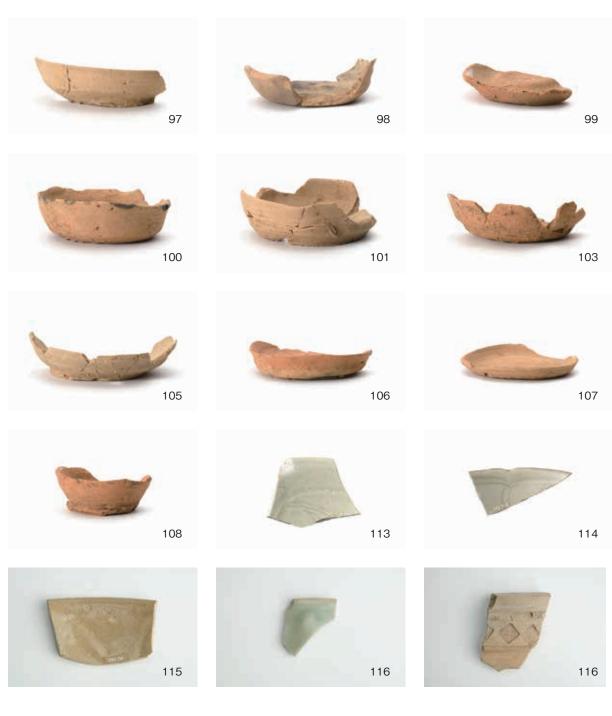


平成29年度 隈府城下遺跡確認調査 井戸デジタル画像







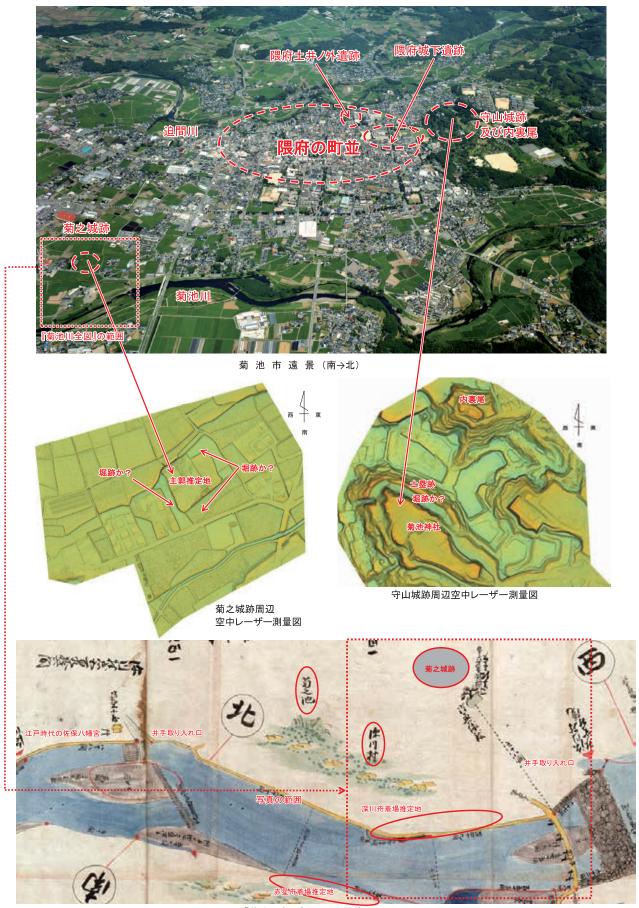




平成28年度隈府城下遺跡 (熊本県県北広域本部敷地内) 確認調査 トレンチ 1 出土遺物 (熊本県教育委員会提供)



平成28年度隈府城下遺跡確認調査(熊本県県北広域本部敷地内) トレンチ2 出土遺物(熊本県教育委員会提供)



『菊池川全図』深川付近抜粋

報告書抄録

ふりがな	ちゅうせい きくちいちぞく かんれんいせきぐん かくにんちょうさ がいようほうこくしょ
書 名	中世菊池一族関連遺跡群確認調査概要報告書
副 書 名	「菊之城跡」「守山城跡及び内裏尾」「隈府城下遺跡」
シリーズ名	菊池市文化財調査報告
シリーズ番号	第10集
編著者名	坂本憲昭 西住欣一郎 北原美和子 阿南 亨
編集機関	菊池市教育委員会
所 在 地	〒 861-1392 熊本県菊池市隈府 888 番地 『EL 0968-25-7232
発行年月日	2020年3月28日

ふりがな 所収遺跡	所在地	市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
*くのじょうあと 菊之城跡	熊本県菊池市北宮203他		菊池083	32度58分12秒	130度48分25秒	2012.3.15 2012.3.27	71 m²	遺跡範囲確認
もりやまじょうあとおよ だいりお 守山城跡及び内裏尾	熊本県菊池市隈府城山1257	43210	菊池054	32度59分17秒	130度48分59秒	2015.9.09 2015.9.30	960 m²	遺跡範囲確認
わいふしろしたいせき 隈府城下遺跡	熊本県菊池市隈府城下1272-2		菊池175	32度59分10秒	130度48分49秒	2019.4.11 2019.4.19	49.5 m²	市民広場再整備他

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
菊之城跡	城	中世	溝状遺構 土坑 ピット	土師器 須恵器 青磁 白磁 陶質系擂鉢 瓦器 風炉	城、もしくは居館と考えられる。
守山城跡及び内裏尾	城	中世	土塁		中世の土塁かどうかは不明。
隈府城下遺跡	包蔵地	中世	溝状遺構 ピット 井戸	土師器 須惠器	居館の堀跡検出か?

要 約

菊之城跡、守山城跡は中世肥後国において、有力豪族であった菊池一族の本城と目されている。 菊之城跡は確認調査により、溝状遺構、ピット等を検出し、土師器を中心として陶磁器等、13世紀代の遺物を多く出土し、域もしくは居館の存在が補強された。また周辺からは輸入陶磁器が表採できること、今ものこる地名等、中世の拠点であることをうかがわせる。 守山城跡は土塁が現存しており、城跡であった可能性は大きい。 隈府城下遺跡は守山城直下に所在し、確認調査で堀跡と目される溝状遺構、井戸が検出され、100m超四方の規模を持つ居館がかつて存在した可能性がある。過去に調査された隈府土井ノ外遺跡でも堀跡が見つかっており、隈府一帯には中世から町並みが整備されていたことがうかがえる。 さらに中世文書からも当時の菊池の城の動向を知ることができる。

菊池市文化財調査報告第10集

中世菊池一族関連遺跡群 確認調査概要報告書

「菊之城跡」 「守山城跡及び内裏尾」 「隈府城下遺跡」

令和2年3月

羅 菊池市教育委員会

〒861-1392 熊本県菊池市隈府888番地

印刷 株式会社 トライ

〒861-0105 熊本県熊本市北区植木町味取373-1